

# KNOW

NEWS  
LETTER

NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER

2017.8  
第97号



公益財団法人  
麻薬・覚せい剤乱用防止センター  
Drug Abuse Prevention Center



競輪の補助事業

この冊子は、競輪の補助により作成しました。  
<http://hojo.keirin-autorace.or.jp>



# NEWS LETTER

## 2017.8・第97号

### C O N T E N T S

随想

#### ●薬物乱用を若者で考える

一般社団法人 偽造医薬品等情報センター 事務局長 高梨 宏 ..... 1

かいせつ

#### ●安心して「クスリがやめられない」といえる社会を目指して

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 松本 俊彦 ..... 2

#### ●街頭キャンペーン・厚生労働大臣メッセージ ..... 5

#### ●全国にコダマする「ダメ。ゼッタイ。」の合言葉 ..... 6

国際薬物規制100年「過去からの物語」シリーズVII

#### ●「1900年代初頭：もうひとつの麻薬密輸の物語」

(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター理事 藤野 彰 ..... 40

#### ●平成28年中の薬物情勢について ..... 44

#### ●啓発資材のご案内 ..... 51

#### ●ご寄付団体及び賛助会員 ..... 52

# 薬物乱用を若者で考える

一般社団法人 偽造医薬品等情報センター

事務局長 高 梨 宏

毎年6月中旬から「ダメ。ゼッタイ。」普及運動として全国各地で薬物乱用防止のためのキャンペーンが開かれます。国民一人一人の薬物乱用問題に関する認識を高めるため、正しい知識の普及、広報啓発を全国的に展開していくものです。

薬物乱用を若者に焦点をあて考えてみたいと思います。現在はネット社会でもあります。あらゆる情報が瞬時に手に入る時代となり、小学生でも簡単に情報を手に入れることが出来ます。しかし、情報は全て正しいわけではなく、誤りの情報も沢山あります。誤りの情報に騙されないためには、まず事実を知らなければなりません。判り易い例を示します。シンナーを吸引するアンパン遊びは皆さんもご存じだと思います。この遊びは昭和時代に社会問題となりましたがそれに代るガスパン遊びは、今でもニュースになることがあります。ボタンガスの吸引で酩酊感を味わうというものです。ガスライターの補充ガス、家庭用コンロのボンベなどから吸引します。若者は、退屈を紛らわせるため、反抗心を表すため、どんなものか試してみる等の理由から身近なものに手を出します。きっかけは魅惑的な情報（誤）からです。しかし、その恐ろしさは知らないのです。有機溶剤やガスに含まれる化学物質は肺を通り速やかに血液に入り脳に到達し、身体や精神に障害を与えます。また、酸欠状態で酩酊感が出るので呼吸困難で突然死も引き起こします。一緒にタバコでも吸えば引火し爆発し、他人を巻き込む危険性もあります。悲惨

なのは、長期的影響で筋肉は衰弱し、方向感覚はなくなり精神状態もコントロール出来ず回復不可能な状態となります。一度なら大丈夫と思わないでください。神経的にも肉体的にも依存があり、行動異常、精神障害、臓器障害を引き起こします。「遊び」という言葉の誘惑には要注意です。

合法ドラッグや脱法ハーブは、まさに誤りの情報です。誤りの情報を打ち消すため「危険ドラッグ」の呼称にし、取締りを強化した結果、販売店は壊滅され、ニュースに取り上げられることも、少なくなりました。「指定薬物」とは、中枢神経系の興奮若しくは抑制又は幻覚的作用（当該作用の維持又は強化の作用を含む。以下「精神毒性」という。）を有する蓋然性が高く、かつ、人の身体に使用された場合に保健衛生上の危害が発生するおそれがある物と、定義しています。「精神毒性」とは、妄想・幻覚・精神錯乱等が起る状態です。現在も「毒」を説明することなく危険と思われるものを販売しているサイトがいくつも存在します。指定薬物をパッケージだけ変えて販売する輩（やから）もいます。シバガスと称し笑気ガスをパーティーの風船を膨らませるボンベとして販売し実は吸引目的で使用させるといふものが出回った事があります。笑気は、麻酔剤として承認されている成分です。（シバガスは指定薬物です）性的興奮を高める為に「Rush」といった亜硝酸エステルを吸引させたりもします。植物に「葉機法なし」と、精神毒性のあるベニテンダケやサボテ

ンの一種の乾燥片を販売するものもあります。

若者は、おしゃれなパッケージやネーミングでドラッグへと誘われます。危険な遊びが危険な人間関係へ、危険な場所へ、さらに強力なドラッグへと連鎖していく事を若者も大人も知るべきです。一度、危険な人間関係に入るとそこは隠語を使い隔離された世界となります。草やコーク、スピード、シュガーなど数えきれないほど違法薬物の隠語があります。それが仲間を識別する隠語としてSNS等で拡散していきます。

医薬品の乱用も同様で、最近のサイトで危惧しているものがあります。通称スマドラを推奨するサイトです。スマートドラッグ（頭よくなる薬）と称して脳循環改善剤等を通常の用量よりも多量に服用し、また数種類の医薬品を併用することも薦めています。開発までに検討されていない使い方は、どんな影響がでるのか不明です。海外では学生の間で大流行していることもあり日本の若者も買い求めている可能性もあります。また、精神トリップ薬を紹介するサイトもあります。セロトニン作動性抗不安薬や非ベンゾジアゼピン系鎮静・睡眠薬を紹介しています。トリップとは、「麻薬等で幻覚作用を見ることが」と理解出来ます。本来、医薬品は疾病の治療に用いるものであり、目的外使用すれば薬物乱用です。これらのサイトは、個人輸入代行会社に繋がるものです。簡単にアクセス出来るという点では、違法薬物より危険かも知れません。

薬物乱用の怖さを知ってもらうには、「薬教育」が重要と考えています。私たちも「事実」を丁寧に判り易く、伝えていこうと思います。

# といえる社会を目指して

## はじめに——誤解されている病氣

昨年の5月、ある著名人が覚せい剤取締法違反で逮捕されました。その際、その人が逮捕される際に麻薬取締官にいった、「ありがとうございませう」という発言が、マスメディアのあいだでちょっとした話題になったのを覚えているでしょうか？ 私はこの一件を一生忘れないでしょう。というのも、この一件に関して、あるワイドショー番組でタレント・コメンテーターがしたコメントに、私は心底腹が立ったからです。そのコメントとは、「ありがとうなんて軽いね。反省が足りない」というものでした。

これまで私は、何人もの覚せい剤依存症患者が、「逮捕された瞬間、思わず『ありがとう』っていつてしまった」と苦笑まじりに語るのを聞いてきました。そしてその理由を聞くと、みな一様にこういいました。「これでやっとクスリがやめられる、もう嘘をつかないでいい。そう思ったら、何だかホッとしてしまった」と。

要するに、あの「ありがとう」という言葉は、その人がそれだけ悩んでいた、苦しんでいたということを意味するものなのです。「軽い」「反省が

足りない」などという批判は見当違いもはなはだしいうべきでしょう。

それにしても、つくづく薬物依存症者は誤解されていると思います。たとえば、ある薬物依存症者が「やめられない」と告白した状況を想像してください。その状況、専門家であれば、「よくいえたね。回復の第一歩だよ」と褒めるところです。しかし、世間一般の反応はどのようなものでしょうか。おそらく「反省が足りない」と非難され、それまでの業績や人格を否定され、社会から排除されるのがオチです。

しかも、そのような「辱めと排除」は、しばしば「犯罪抑止」という理由から正当化されています。曰く、「どうせ治りっこない薬物依存症の治療なんか力を入れるより、新たに薬物依存症を作らないことに注力した方が効率的だ。それには、取り締まりの強化に加え、薬物犯罪をおかした人への社会的制裁こそが抑止力となる」。

本当にそうなのでしょうか。社会的制裁が薬物犯罪の防止に有効である、という科学的根拠は存在するのでしょうか。

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部

松本俊彦

## 薬物戦争敗北宣言

国内メディアは不思議と取り上げませんが、いま世界中の多くの国が、かつての薬物依存症者を辱め、排除する政策を反省しています。

歴史的に見ると、最初に「辱めと排除の政策」をとったのは米国でした。1971年、ニクソン大統領は、ニューヨーク市における薬物乱用者の増加を憂い、「米国人最大の敵は薬物乱用だ。この敵を打ち破るために、総攻撃を行う必要がある」と述べ、薬物犯罪の取り締まり強化と厳罰化という「薬物戦争」政策を開始したのです。

その結果はどうだったのでしょうか。

統計データが明らかにしたのは、実に皮肉な結果でした。取り締まり強化に莫大な予算を投じたにもかかわらず、世界中の薬物消費量は増加の一途をたどり、薬物に関連する犯罪やそれによる受刑者、そして死亡やHIV感染症などの健康被害が激増したからです。そして、厳しい規制が闇市場に巨大な利益をもたらし、かえって反社会的組織を大きく成長させてしまっていたのです。

こうした検証結果を踏まえ、「戦争」開始から40年を経過した2011年、薬物政策国際委員会

# 安心して「クスリがやめられない」

（各国の元首脳などからなる非政府組織）は、あの重大宣言をしました。それは、「薬物戦争にもはや勝利の見込みはない。この戦争は完全に失敗だった」という敗北宣言でした。さらに同委員会

は各国政府に、薬物依存症者に対しては刑罰ではなく医療と福祉的支援を提供するよう提言をしたのです。

世界保健機関もこの動きに呼应しました。2013年に公表したHIV予防・治療ガイドライン

のなかで、各国に規制薬物使用を非犯罪化し、刑務所服役者を減らすよう求めるとともに、薬物依存症者に適切な治療、および、清潔な注射針と注射器を提供できる体制を整えることを提案したのです。

要するに、「辱めと排除」による薬物犯罪の防止は、いまや国際的には時代遅れとなっているわけです。

## ポルトガルの薬物政策

こうした提言の背景には、ポルトガルが行った大胆な薬物政策の成功がありました。

2001年、ポルトガル政府は、あらゆる薬物の少量所持や使用を許容することを決定しました。そのうえで、薬物を使用する人たちを刑務所に収容して社会から排除するのではなく、依存症治療プログラムや各種福祉サービスの利用を促すとともに、社会での居場所作りを支援し、孤立させな

いことを積極的に推し進めたのです。

具体的には、薬物依存症者に対する就労斡旋サービスの拡充、薬物依存症者を雇用する経営者への資金援助、さらには、起業を希望する薬物依存症者に少額の融資などです。いいかえれば、これまで薬物依存症者を辱め、社会から排除するために割っていた予算を、逆に彼らを再び社会に迎えられるために割り当てたわけです。

もちろん、反対意見もありました。それは、「非犯罪化によって、より多くの若者たちが薬物に手を染め、治安の悪化を招くのではないか」という懸念です。

しかし、結果的に、この実験的政策は劇的な成功をおさめました。政策実施10年後の評価において、ポルトガル国内における注射器による薬物使用、薬物の過剰摂取による死亡、さらにはHIV感染が大幅に減少し、治療につながる薬物依存症者も著しく増加しました。しかし、何よりも最も重要な成果は、十代の若者における薬物経験者の割合が減少したということです。

ポルトガルの成功が意味するのは何でしょうか。それは、薬物問題を抱えている人を辱め、排除するのではなく、社会で包摂すること、それこそが、個人と共同体のいずれにとってもメリットが大きい、という事実ではないでしょうか。

## 誰もが依存症になるわけではない

ところで、人はなぜ薬物依存症になるのでしょうか。

多少とも見識のある方ならば、おそらくこう答えるはずです。「依存症の原因は、性格や意志の弱さなんかじゃない。薬物に手を出したからだ。その結果、薬物の強烈な快感が脳に刻印付けされてしまい、脳が支配されてしまっているからだ」と。

なるほど、その通りです。確かに依存症になりやすい性格傾向など存在はしませんし、薬物を使っただけで、たかがい人ほどあがいても薬物依存症にはなりません。

しかし、この回答では100点満点で50点です。なぜなら、その回答では、「薬物に手を出しても依存症になる人とならない人がある」という事実を説明できないからです。

たとえば、アルコールはれっきとした依存性薬物ですが、それでも依存症になるのは飲酒者のごく一部です。また、睡眠薬でも依存症になる人はいませんが、それも使用経験者の一部にかぎられます。さらに、重篤な外傷や外科手術後の鎮痛のために病院で麻薬を投与される患者はたくさんいますが、その大半は依存症にはなりません。

実は、覚せい剤の場合も同じなのです。覚せい剤依存症患者の大半は、最初のうちは仲間と一緒に覚せい剤を使っていたのに、気づくとひとり取り残されてしまった人々たちです。彼らはよくこう

愚痴ります。「昔、一緒にクスリをやっていた奴は、今じゃみんな家庭を持ってちゃんと家族を養っている。いまだクスリから抜け出せないのは自分だけ。どうして自分はダメなのか……」と。

なぜ依存症になる人とならない人がいるのでしょうか。

## 「ネズミの楽園」が教えてくれること

興味深い実験があります。1980年にサイモン・フレーザー大学のブルース・アレグサンダー博士らが行った、「ネズミの楽園」と呼ばれる有名な実験です。

この実験では、ネズミは、居住環境の異なる二つのグループに分けられました。一方のネズミは、一匹ずつ金網できた檻の中に（「植民地ネズミ」）、そしてもう一方のネズミは、広々とした場所に雌雄十数匹が一緒に入れられました（「楽園ネズミ」）。ちなみに、楽園ネズミに提供された広場は、まさに「ネズミの楽園」でした。床には、巣を作りやすいように常緑樹のウッドチップが敷き詰められ、いつでも好きなときに食べられるように十分なエサも用意されました。また、所々にネズミが隠れたり遊んだりできる箱や缶が置かれ、ネズミ同士の接触や交流を妨げない環境になっていました。

アレクサンダー博士らは、この両方のネズミに対し、普通の水とモルヒネ入りの水を用意して与

え、57日間観察したわけです。その結果は実に興味深いものでした。植民地ネズミの多くが、孤独な檻の中で頻繁にモルヒネ水を摂取しては、日がな一日酩酊していたのに対し、楽園ネズミの多くは、他のネズミと遊んだり、じゃれ合ったり、交尾したりして、なかなかモルヒネ水を飲もうとしなかったのです。

この実験結果こそが、「なぜ一部の人だけが薬物依存症になるのか」という問いの答えではないでしょうか？ それは、自分が置かれた状況を「狭苦しい檻」と感じている人の方が、「楽園」と感じている人よりも薬物依存症になりやすいということ、つまり、しんどい状況にある人ほど依存症になりやすいということです。

## おわりに——安心して「やめられない」といえる社会

「ネズミの楽園」実験には続きがあります。アレクサンダー博士らは、檻の中でモルヒネ水をばかりを飲んで酔っ払っていた植民地ネズミを、今度は、楽園ネズミのいる広場へと移したのです。すると、彼らは、広場の中で楽園ネズミたちとじゃれ合い、遊び、交流するようになりました。

それだけではありません。驚いたことに、檻の中ですっかりモルヒネ漬けになっていた彼らが、けいれんなど、モルヒネの離脱症状を呈しながらも、いつしかモルヒネ水ではなく、普通の水を飲

むようになったのです。

この実験結果が暗示しているものは、一体何なのでしょうか。

私はこう考えています。それは、薬物依存症から回復しやすい環境とは、「薬物がやめられない」と発言しても、排除もされなければ孤立を強いられることもない社会、むしろその発言を回復の第一歩と見なし、応援してもらえる社会であるということです。

一言でいいます。それは、安心して「やめられない」といえる社会なのです。

## 『ダメ。ゼッタイ。』普及運動」における 街頭キャンペーン・厚生労働大臣メッセージ

今日、薬物の乱用が深刻な社会問題となっています。

薬物は、一度でも手を出すと、自分の意志では止めることが極めて難しくなります。自らの体や心をむしばむだけでなく、家族や周りの人々の人生をも取り返しのつかないものにしてしまいます。薬物は絶対に使用してはいけません。

我が国の薬物情勢は、危険ドラッグについては、平成二十七年七月に販売店舗を全滅させることができましたが、インターネットを利用して密売されるなど、いまだその脅威は完全には去っていません。覚醒剤事犯の検挙人員は引き続き高止まりとなっており、再犯率は六割を超えています。

また、最近では、特に若年層による大麻の乱用が大きな社会問題となっています「大麻は害がない。」との認識は誤りで、大麻は違法であるだけでなく薬物への依存をもたらし、その有害性は覚醒剤などの他の薬物と何ら変わりありません。

薬物の乱用から自分自身を守るためには、どんな人から誘われても、きっぱりと断る勇気を持つことが何よりも大切です。皆様一人一人に、「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、薬物乱用防止の輪を大きく広げていただき、共に薬物乱用を許さない社会を形成していきましょう。

平成二十九年六月二十六日

厚生労働大臣 塩崎 恭久



## 普及運動・国連支援募金

# 「ダメ。ゼッタイ。」の合言葉



平成29年度も厚生労働省、都道府県、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターが主催し、国際連合(薬物犯罪事務所)、内閣府のほか関係11省庁の協賛及びボーイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ、ロータリークラブほか42団体後援のもとに「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施され、その一環としての「6・26ヤング街頭キャンペーン」は、6月27・28日を中心に約一カ月間、各都道府県で実施されました。(764ヶ所、約42,174人参加)

本普及運動は、新国連薬物乱用根絶宣言(2009(2019年)の支援事業の一環として、官民一体となり、国民一人一人の薬物乱用問題に対する認識を高め、併せて、国連決議による「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」の周知を図り、内



# ダメ。ゼッタイ。 全国にコダマする



外における薬物乱用防止に資するために実施されるものです。

(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、この運動と並行して、麻薬乱用防止活動に従事する民間団体の活動資金を国連を通じて支援するための「国連支援募金」運動を実施し、本年も全国から善意の浄財が集まりました。

また同期間中には、各種薬業関係団体、理・美容、クリーニング、浴場、飲食業等の各環境衛生同業組合等のご協力により、店頭でののぼり、ポスター掲出、「一声運動」による啓発、募金運動などを行う「地域団体キャンペーン」も全国的に実施されました。

以下、各都道府県からお寄せいただいた「6・26ヤング街頭キャンペーン」等の状況をご報告いたします。

# 北海道

| 月 日  | 6月17日～7月19日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 札幌市、函館市等、全道179市町村で実施                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 活動主体 | 北海道、北海道警察本部、北海道薬物乱用防止指導員連合協議会、北海道薬物乱用防止指導員各地区協議会（21地区）、ヤングボランティア（ボースカウト、ガールスカウト、中学生、高校生、大学生等）、薬業関係団体、保護司会、青少年育成団体、関係行政機関等                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 参加人員 | 約600人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 活動状況 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン<br/>全道21地区で、北海道薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア（ボースカウト、ガールスカウト、中学生、高校生等）、薬業関係団体会員、保護司、民生委員、警察官、市町村職員、保健所職員等あわせて約600人が、大型スーパー前、各祭事イベント会場、大学祭、登校時の中学校校門前等において、道民を対象に、危険ドラッグ、大麻等の薬物の乱用防止に関するチラシ、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布するとともに、のぼり、ポスターを掲示し、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。</p> <p>②地域団体キャンペーン<br/>6月20日～7月19日までの間、道内約300店舗（薬局、薬店、道の駅、温泉、スーパー等）の協力を得て、麻薬・覚せい剤等の乱用防止に関するチラシ等の配布、ポスターの掲示を行い、あわせて、危険ドラッグ、大麻等の危害について「一声運動」を実施するとともに、国連支援募金箱を設置した。</p> |



青森県



北海道

# 青森県

| 月 日  | 6月24日、25日、27日                                                                                                                                   |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | （青森市）JR青森駅前（弘前市）さくら野百貨店弘前店、イオンシネマ弘前（八戸市）はっち前（八戸市中心街商店街はちのへホコテン会場）                                                                               |
| 活動主体 | 主催 青森県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会<br>協力団体 青森県薬剤師会、青森市薬剤師会、青森県医薬品登録販売者協会、青森県医薬品配置協会、ライオンズクラブ、ボースカウト、ガールスカウト、青森大学薬学部、青森県薬物乱用防止指導員各地区協議会、青森市保健所、八戸市保健所、青森県 |
| 参加人員 | （青森市）49人<br>（弘前市）74人<br>（八戸市）35人                                                                                                                |
| 活動状況 | <p>6・26ヤング街頭キャンペーン<br/>6・26ヤング街頭キャンペーンとして、通行人等に対し啓発用パンフレット、バンソウコウ等の配布をするとともに薬物乱用防止の呼び掛けを行い、併せて「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金活動を行った。</p>                       |



## 岩手県

| 月 日  | 6月24日                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | ①イオンモール盛岡南（盛岡市）、<br>②シープラザ釜石（釜石市）<br>計2ヶ所                                                                                                                                                                                                    |
| 活動主体 | 岩手県薬物乱用防止指導員、管内ボーイスカウト、管内ガールスカウト、県央保健所、釜石保健所                                                                                                                                                                                                 |
| 参加人員 | ①県央 11名、②釜石 17名<br>合計 28名                                                                                                                                                                                                                    |
| 活動状況 | ①6・26ヤング街頭キャンペーン<br>県内2会場にて、薬物乱用防止指導員、ボーイスカウト、ガールスカウトの協力のもと、一声運動、リーフレットや傷絆創膏の配布、薬物標本及び薬物乱用防止啓発パネル展示等により、薬物乱用防止啓発を行った。<br>②地域団体キャンペーン<br>県薬剤師会、県生活衛生同業組合等の協力店舗においてポスター掲示、薬物乱用防止の呼び掛けを行った。その他、夏の高校野球岩手県大会会場内に啓発横断幕を設置し、広く県民に対し薬物乱用防止の普及啓発を行った。 |



宮城県



岩手県

## 宮城県

| 月 日  | 7月4日、6日、7日、11日、13日、21日、22日、26日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 各地区イオンモール店舗、ヨークベニマル店舗、陸上自衛隊仙台駐屯地、仙台駅ペDESTリアンデッキ<br>計8ヶ所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 活動主体 | 宮城県薬務課、各保健所、宮城県薬物乱用防止指導員、高校生ボランティア、ライオンズクラブ、ワイワイクラブ、各地区薬剤師会、各地区医師会、各地区警察署、各市町村、東北厚生局麻薬取締部                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 参加人員 | 約500人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 活動状況 | ①6・26ヤング街頭キャンペーン<br>各会場において、薬物乱用防止指導員、高校生ボランティアが中心となり、啓発資材（リーフレット・絆創膏等）の配布、募金活動を実施したほか、のぼりやパネル、薬物標本を展示し、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。また、薬物乱用防止啓発訪問事業事務局から貸し出された違法薬物に関するクイズ・射的ゲームセットを用いて、特に若年層に対し、違法薬物の危険性を訴えた。さらに、「ダメ。ゼッタイ。」君や仙台・宮城観光PRキャラクターの「むすび丸」も登場し、イベントを盛り上げた。<br>②地域団体キャンペーン<br>7月22日に仙台市薬剤師会が、全国政令指定都市薬剤師会統一薬物乱用防止キャンペーンとして、仙台駅ペDESTリアンデッキにて、リーフレットやうちわ、ポケットティッシュを配布した。 |

## 秋田県

| 月 日                         | 開催場所                                                                                                                                                                                            | 活動主体                                                                                                                                                    | 参加人員  | 活動状況                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月25日、26日、28日、7月2日、3日、8日、9日 | イオンスーパーセンター大館店（大館市）、秋田駅東西連絡自由通路ぼろーど（秋田市）、JR能代駅、JR東能代駅（能代市）、イオンスーパーセンター本荘店（由利本荘市）、JR男鹿駅（男鹿市）、いとく鷹巣ショッピングセンター、イオンタウン鷹巣（北秋田市）、イオン横手店（横手市）、イオンモール大曲 花火の広場（大仙市）、湯沢市柳町商店街（第32回湯沢市ふれあい広場）会場内（湯沢市）計11ヶ所 | 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 秋田県実行委員会<br>・大館鹿角地域実行委員会<br>・本荘由利地域実行委員会<br>・鷹巣阿仁地域実行委員会<br>・大曲仙北地域実行委員会<br>・能代山本地域実行委員会<br>・横手平鹿地域実行委員会<br>・秋田周辺地域実行委員会<br>・湯沢雄勝地域実行委員会 | 計413人 | ①6・26ヤング街頭キャンペーン<br>県内11カ所で街頭キャンペーンを実施した。ヤングボランティア（高校生・専門学校生等）の協力を得て、駅などの公共施設、商店街、大型ショッピングセンター等において横断幕、のぼり、なまはげ、ゆるキャラの着ぐるみ等を活用しながら、「ダメ。ゼッタイ。」一声運動、厚生労働大臣メッセージ伝達、リーフレットやポケットティッシュ等の啓発資料の配布、薬物乱用防止啓発パネル等の展示、国連支援募金活動並びに県警薬物乱用防止広報車「みちびき号」を活用した啓発を |

実施した。  
②地域団体キャンペーン  
「ダメ。ゼッタイ。」普及運動地域実行委員並びに薬物乱用防止指導員等の協力により、薬局や飲食店等にてポスターの掲示、リーフレットの配布等を行った。



秋田県

## 山形県

| 月 日                   | 開催場所                                                                                                                                              |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月11日、20日、24日、7月2日、8日 | 6・26ヤング街頭キャンペーン<br>（山形市）イオンモール天童、（新庄市）ヨークベニマル新庄店・ドラッグストア マットモトキヨシ アクロスプラザ新庄店（米沢市）イオン米沢店、（三川町）イオンモール三川 計4市町4ヶ所<br>駅前街頭キャンペーン<br>山形駅、新庄駅、米沢駅、鶴岡駅の構内 |



山形県

| 活動主体   | 参加人員 | 活動状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 県内各保健所 | 198名 | ①6・26ヤング街頭キャンペーン<br>県内4ヶ所の開催場所において、ヤングボランティア、薬物乱用防止指導員及び関係団体の協力を得て、薬物乱用防止の呼びかけ及び啓発リーフレット、ティッシュ等の配布を行うとともに、国連支援募金活動を行った。<br>②地域団体キャンペーン<br>39協賛団体にポスター、リーフレット、募金箱を送付し、各団体構成員への薬物乱用防止の啓発及び国連支援募金活動への協力を依頼した。<br>③駅前街頭キャンペーン<br>運動期間初日（6月20日）に山形県薬剤師会等の関係団体の協力を得て、県内主要駅の構内において、主に通学中の高校生を対象に薬物乱用防止の呼びかけ及び啓発リーフレット、ティッシュ等の配布を行った。 |

# 福島県

| 月 日  | 6月20日～7月19日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 福島市、伊達市、二本松市、郡山市、田村市、須賀川市、石川町、平田村、白河市、棚倉町、会津若松市、喜多方市、会津坂下町、南会津町、相馬市、いわき市計16市町村18ヶ所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 活動主体 | 県、県薬物乱用対策推進本部、「ダメ。ゼッタイ。」県普及運動実行委員会、各地区薬物乱用防止指導員協議会（県内16地区）、関係団体、ヤングボランティア（高校生、専門学校生、ボーイスカウト、ガールスカウト等）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 参加人員 | 1,233名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 活動状況 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン<br/>「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中に、県内16市町村18ヶ所において6・26ヤング街頭キャンペーンを開催した。</p> <p>各地区でキャンペーンに併せて「6・26ヤング街頭キャンペーンセレモニー」を開催し、ヤングボランティア代表による「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用撲滅宣言等を行った。</p> <p>また、各地区のキャンペーンでは、薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア、関係団体の協力を得て、JR駅前、ショッピングセンター等においてリーフレット、ポケットティッシュ、風船などを配布しながら薬物乱用防止を訴えるとともに、ヤングボランティアが中心となり、国連支援募金活動を実施した。</p> <p>②地域団体キャンペーン<br/>関係行政機関、企業、薬局等の協力を得て、ポスター掲示やパンフレット配布を行い、また、国連支援募金活動を通じて一般住民等への啓蒙活動を行った。</p> <p>③その他<br/>全国高等学校野球選手権福島大会が実施されている3カ所の球場に横断幕【薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を掲示し、啓発を図った。</p> |



茨城県



福島県

# 茨城県

| 月 日  | 6月5日～7月27日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 水戸市、東海村、常陸大宮市、北茨城市、鉾田市、行方市、潮来市、龍ヶ崎市、土浦市、つくば市、筑西市、下妻市、常総市、坂東市、古河市計22カ所（①、③合計）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 活動主体 | 県、県薬物乱用対策推進本部、県薬物乱用防止指導員協議会、ヤングボランティア（中・高校生）、関係団体、関係機関                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 参加人員 | 約1,250名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 活動状況 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン<br/>県内15カ所で、薬物乱用防止指導員が中心となり、中学生・高校生等のヤングボランティアに加え、薬事関係団体、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、青少年育成協会、市町村、警察等の協力を得て、街頭においてリーフレット、カットバン、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。</p> <p>併せて、国連支援募金活動を行った。また、各地区において広報誌等を利用して地域に根ざした啓発活動を効果的に実施した。</p> <p>②地域団体キャンペーン<br/>県内の薬局等の薬事関係施設、理・美容所、旅館等の生活衛生営業施設、食品関係施設、病院・診療所、大学・専門学校等約3,000の店舗・施設の協力を得て、ポスターの掲示やリーフレットの配布を実施した。併せて店頭等に募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。</p> <p>③その他<br/>茨城空港において、県警及び税関と合同で特別キャンペーンを行い、利用者に対してリーフレット、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布した。</p> <p>また、高校野球県大会会場（6球場）において横断幕の掲示を行い、来場者に対する啓発を行った。</p> |

## 栃木県

| 月 日  | 6月24～26日                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 宇都宮（JR宇都宮駅、ララスクエア宇都宮、オリオン通り商店街、パルコ宇都宮店）、県西（イオン今市店）、県南（イオン栃木店）、県北（JR矢板駅西口ロータリー）、安足（アピタ足利店、イオン佐野新都市店） 合計9カ所                                                                                                                                                                                                  |
| 活動主体 | 栃木県宇都宮市                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 参加人員 | 237名（ハ内訳▽指導員（59）、ボーイスカウト（38）、ガールスカウト（35）、事務局（35）その他（70））                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 活動状況 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン</p> <p>県内9ヶ所で薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、中・高校生、大学生）、関係機関、そして栃木SSCに加え、プロバスケットボールチームの株式会社栃木ブレックスの協力を得て啓発資材の配布や国連支援募金活動を実施した。</p> <p>当キャンペーンの趣旨や、社会問題となっている危険ドラッグなどの薬物のおそろしさを説明し、本事業の目的である薬物乱用を根絶するための活動を実施した。</p> <p>②地域団体キャンペーン</p> <p>啓発ポスターを掲示した。（市町、警察、県出先機関、県立高等学校等の施設）</p> |

## 群馬県

| 月 日  | 6月5日～8月5日                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 前橋地区（①JR前橋駅、②新前橋駅）、高崎地区（③高崎駅東口及び西口ペデストリアンデッキ）、渋川地区（④JR渋川駅）、伊勢崎地区（⑤スマーク伊勢崎、安中地区（⑥JR安中駅）、藤岡地区 |

| 活動主体 | <p>群馬県、前橋市、高崎市、群馬県薬物乱用対策推進本部、群馬県「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用防止推進連絡協議会、「ダメ。ゼッタイ。」各地区推進連絡協議会（12地区）、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、高校生等）、関係団体（医師会、薬剤師会、保護司会、民生委員児童委員協議会、少年補導員連絡会、医薬品配置協会、ライオンズクラブ、更生保護女性会、食品衛生協会、ロータリークラブ等）</p>                                                                                                                                                                                                   |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 参加人員 | 581人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 活動状況 | <p>①県内16カ所で、薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア、関係団体、警察関係職員、県職員、保健所及び保健福祉事務所職員、市町村職員等、合計581人が駅前やショッピングセンター、高校等において、薬物乱用防止啓発リーフレット、危険ドラッグ乱用防止啓発リーフレット、ポケットティッシュ、絆創膏等の啓発資材を配布しながら薬物乱用防止を呼びかけた。また、ヤングボランティアが中心となって、国連支援募金活動を行った。</p> <p>②地域団体キャンペーンとして、薬局や飲食店、理容店、クリーニング店、旅館等の協力を得て、ポスターの掲示及び一声運動を実施し、併せて店頭で募金箱を設置してもらい国連支援募金活動への協力を呼びかけた。</p> <p>③7月8日から27日までの期間、第99回全国高等学校野球選手権群馬大会が実施された上毛新聞敷島球場及び高崎城南野球場に「ダメ。ゼッタイ。」の横断</p> |



群馬県



栃木県

幕を掲出した。

④6月5日に群馬ダイヤモンドペガサス、8月5日にザスパクサツ群馬の試合会場にて、群馬県警察本部と合同で、来場者に対し薬物乱用防止啓発を実施した。

# 埼玉県

| 月 日        | 開催場所                                                                                                                                                                                            | 活動主体                                                                                                        | 参加人員    | 活動状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月24日～8月6日 | 川口市たたら祭り、北朝霞駅、春日部駅、越谷駅、新越谷駅、越谷市民球場、草加朝顔市、COCON CITY、東松山市内、小川町七夕まつり、嵐山町夏祭り、坂戸市内各駅（坂戸駅、北坂戸駅、若葉駅）、メットライフドーム、羽生駅、加須駅、行田市教育文化センター、久喜提燈祭り、熊谷うちわ祭、深谷まつり、本庄祇園まつり、あめ薬師縁日、大宮駅、大江戸新座まつり、埼玉スタジアム2002ほか計24か所 | 埼玉県、埼玉県薬物乱用防止指導員連合協議会、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動埼玉県実行委員会、埼玉県警察本部、埼玉県教育委員会、各市町村、埼玉県薬剤師会、ライオンズクラブ3301C地区、日本ボーイスカウト埼玉県連盟など | 約1,000人 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン、青少年啓発キャンペーン</p> <p>県内の祭事や駅頭等において、横断幕・のぼりを掲示するとともに、リーフレット、うちわ及びポケットティッシュ等の啓発資材を配布した。また、ボーイスカウトなどによる街頭募金を通じて、薬物乱用防止を訴えた。</p> <p>②地域団体キャンペーン</p> <p>関係団体の店頭等にポスター掲示と募金箱を設置し、国連支援募金の呼びかけを行うとともに、関係団体が主催するキャンペーンにおいて啓発資材を配布した。</p> <p>③その他</p> <p>県ホームページや市町村広報紙等の様々なメディアを活用し、薬物乱用防止の広報を実施した。</p> |



千葉県



埼玉県

# 千葉県

| 月 日        | 開催場所                                                                                    | 活動主体                                       | 参加人員 | 活動状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月3日～7月28日 | 習志野市、市川市、松戸市、我孫子市、野田市、佐倉市、香取市（4ヶ所）、東庄町、銚子市、東金市、茂原市、勝浦市、館山市、鴨川市、木更津市、市原市、千葉市、船橋市、柏市計22ヶ所 | 千葉県、千葉県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、千葉県薬物乱用防止指導員協議会 | 868人 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン</p> <p>県内22ヶ所において、各薬物乱用防止指導員地区協議会が中心となり、警察署、市町村の関係機関やライオンズクラブ、ロータリークラブ等の関係団体及びボーイスカウト、ガールスカウト等のヤングボランティアの協力を得て、うちわ、ポケットティッシュ、リーフレット等啓発資材の配布を行い薬物乱用防止を訴えた。</p> <p>②地域団体キャンペーン</p> <p>医師会、歯科医師会、薬剤師会、薬業会、理美容組合、クリーニング組合等の協力を得て、関係施設にポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し、薬物乱用防止を訴えた。</p> <p>③広報啓発活動</p> <p>県ホームページ等の媒体を通じて薬物乱用防止を訴えた。</p> |

東京都

| 月 日  | ① 6月25日（日曜日）<br>②③ 6月20日から7月19日までの期間                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | ① 6・26国際麻薬乱用撲滅デー都民の集い（池袋西口公園）<br>② 行政機関（都保健所 他）                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 活動主体 | ① 都民の集い（主催…東京都、東京都薬物乱用対策推進本部、東京都薬物乱用防止推進協議会、厚生労働省、（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センター 共催…豊島区、警視庁）<br>② 行政機関                                                                                                                                                                                                                                  |
| 参加人員 | ① 約3,500人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 活動状況 | ① 都民の集い<br>△催し物△<br>（1）式典（主催者・来賓挨拶等）（2）「ダメ。ゼッタイ。」トークライブ・ステージショー（出演者…9nine（ナイン））（3）警察犬（薬物捜索犬）デモンストラーション（4）薬物乱用撲滅宣言<br>△啓発活動企画展示△<br>（1）薬物乱用防止企画展示（パネル等）（2）啓発活動（リーフレット・グッズ配布等）（3）国連支援募金活動（4）着ぐるみ「ダメ。ゼッタイ。君」「ピーポくん」「としま ななまる」<br>② 行政機関<br>啓発ポスターの掲示などを行った。<br>③ その他<br>都提供番組や広報紙で薬物乱用防止に関する内容を取り上げた。<br>街頭・列車内ビジョン等で啓発動画を放映した。 |

神奈川県

| 月 日  | 7月19日ほか                                                                                                                                                                 |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 横浜駅ほか県内主要駅、スタジアム、文化施設、商業施設等                                                                                                                                             |
| 活動主体 | 県薬剤師会、神奈川県、薬物クリーンかながわ推進会議（薬物乱用防止指導員協議会、麻薬等薬物相談員会、保護司会連合会、横浜税関、県内関係機関等182団体）、市町村、教育委員会、県警察本部等                                                                            |
| 参加人員 | 約2,000人（横浜駅）                                                                                                                                                            |
| 活動状況 | 県薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の実施期間中に県内各地において、スタジアム、地域のお祭り、イベント等における啓発資材の配布やミニ集会等、地域と一体となった啓発活動・国連支援募金活動を実施した。また、各関係機関・団体及び市町村にポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。 |



東京都

新潟県

| 月 日  | 5月28日、6月20日、21日、24日、28日、30日、7月7日、9日、19日                        |
|------|----------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 村上市、新発田市、五泉市、燕市、長岡市、魚沼市、南魚沼市、十日町市、柏崎市、上越市、糸魚川市、佐渡市、新潟市13市、13ヶ所 |
| 活動主体 | 新潟県、新潟県薬物乱用対策推進本部（新潟県教育委員会、新潟県警察本部、新潟県地方検察庁、新潟海上保安部、新潟         |



神奈川県

特に、7月19日に横浜駅において、関係団体等の協力を得て「ダメ。ゼッタイ。」普及運動街頭キャンペーンを実施した。着ぐるみ「ダメ。ゼッタイ。子ちゃん」も駆けつけ、リーフレット等の啓発資材の配布による薬物乱用防止の呼びかけを行うとともに、横断幕やのぼり旗を活用し、普及啓発を行った。  
街頭キャンペーンに加え、ポスター掲示や県薬務課公式ツイッター（@Kana.yaku）等も活用し、広く県民に薬物乱用防止を呼び掛けた。

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動状況 | 保護観察所、新潟税関支署、新潟労働局、新潟少年鑑別所、東京入国管理局新潟出張所、一般社団法人新潟県医師会、新潟県精神科病院協会、公益社団法人新潟県薬剤師会、新潟県市長会、新潟県町村会、新潟県薬物乱用防止指導員、一般社団法人新潟県歯科医師会、新潟県青少年健全育成県民会議、社会福祉法人新潟県社会福祉協議会、日本ボーイスカウト新潟連盟、一般社団法人ガールスカウト新潟県連盟、公益社団法人新潟県防犯協会、公益社団法人新潟県食品衛生協会、公益財団法人新潟県生活衛生営業指導センター、一般社団法人新潟県医薬品登録販売者協会、新潟県医薬品配置協議会、日本医薬品卸勤務薬剤師会新潟県支部、新潟県高等学校野球連盟 |
|      | 参加人員<br>約310人                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①6・26ヤング街頭キャンペーン<br>県内13会場において、ボーイスカウトや高校生等のヤングボランティアをはじめ、薬業関係団体等の協力を得て、リーフレット・ポケットティッシュ・キズ絆創膏などの啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、国連支援募金活動を行った。<br>村上市、三条市及び南魚沼市の会場では、地元で活動している新潟お笑い集団「NAMARA」のタレントの方からも参加協力をいただき、啓発活動を行った。<br>②その他<br>ア 全国高等学校野球選手権大会新潟県大会期間中、会場の鳥屋野球場及びハードオフエコスタジアムに薬物乱用防止の懸垂幕及び横断幕を掲出し、高校生をはじめ広く県民に啓発を図った。<br>イ 県庁構内等で薬物乱用防止啓発の横断幕、ポスターを掲出するとともに、庁舎内の生協売店や金融機関等に募金箱を設置し、来庁者等に対して啓発を行い、募金の協力を呼びかけた。 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 月 日  | 開催場所                           | 活動主体                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月9日 | 富山市、高岡市、魚津市、滑川市、砺波市、射水市 計6市6カ所 | <p>富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会（41団体）</p> <p>○6・26ヤング街頭キャンペーン参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生等の学生（9校、49人）</li> <li>・富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会</li> <li>・ガールスカウト富山県連盟、国際ソロプチミスト、富山県医薬品登録販売者協会、富山県医薬品配置協議会、富山県高等学校PTA連合会、富山県少年警察ボランティア連絡協議会、富山県塗料商同業会、富山県内少年補導センター連絡協議会、富山県PTA連合会、富山県防犯協会、富山県保護司会連合会、富山県薬</li> </ul> |

## 富山県



新潟県



富山県

|                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>参加人員<br/>302人</p> | <p>薬剤師会、日本青年会議所富山ブロック協議会、日本ボーイスカウト富山県連盟、ライオンズクラブ国際協会3341D地区（五十音順）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海上保安部職員、警察職員、県職員、富山市保健所職員</li> </ul>                                                                                                                                                                           |
| <p><b>活動状況</b></p>   | <p>高校生等の学生、ボーイスカウト、ガールスカウトのヤングボランティアを中心に、薬物乱用防止指導員、ボランティア団体等が、県下6会場（繁華街、ショッピングセンター等）において横断幕やのぼりを掲示し、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、リーフレット、絆創膏、ポケットティッシュの啓発資材を配布した。</p> <p>併せて、国連支援募金活動を実施した。</p> <p>また、青少年が集うイベント（全国高校野球選手権富山大会、カターレ富山公式戦）において、会場での横断幕・ポスター掲示を行うとともに、場内放送及び啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。</p> <p>その他、交通広告を利用し、薬物乱用防止広報活動を実施した。</p> |

# 石川県

| 月 日  | 6月25日ほか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 金沢市、加賀市、かほく市、七尾市、輪島市 計5会場                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 活動主体 | 県、警察本部（組織犯罪対策課、少年課）、金沢市保健所、薬剤師会、保護司会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、ライオンズクラブ、更生保護女性連盟、BBS連盟、ボーイスカウト、ガールスカウト等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 参加人員 | 243人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 活動状況 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン<br/>金沢駅前や大型ショッピングセンターなど県内5会場において、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト等）、薬物乱用防止指導員及び薬業団体の会員が中心となり、会場を訪れた買い物客等にリーフレットやポケットティッシュ等の啓発資材を配布し、広く県民に薬物乱用防止を訴えるとともに、ヤングボランティアが国連支援募金への協力を呼びかけた。</p> <p>②地域団体キャンペーン<br/>6月20日から7月19日までの期間、薬剤師会等の地域団体の協力を得て、薬局や生活衛生営業施設等にポスターを掲示するとともに、募金箱を設置し、薬物乱用による危害について一声かける「一声運動」を実施するとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。</p> <p>③青少年への啓発活動<br/>7月14日から開催された第99回全国高等学校野球選手権石川大会の期間中に、関係機関の協力を得て、横断幕・ポスターを掲示し、試合中の電光掲示板に薬物乱用防止のメッセージを流すことで球場に応援に来た学生ら若者に薬物乱用防止の啓発を行った。</p> |

# 福井県



石川県

| 月 日  | 6月24日、25日                                                                                                                                             |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 福井市、坂井市、大野市、鯖江市、敦賀市、小浜市<br>県内計6か所                                                                                                                     |
| 活動主体 | 県、各警察署、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、ガールスカウト日本連盟福井県支部、日本ボーイスカウト福井連盟                                                                           |
| 参加人員 | 約200人                                                                                                                                                 |
| 活動状況 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン<br/>県内6カ所のショッピングセンター等で、ヤングボランティア（ガールスカウト、ボーイスカウト）、薬物乱用防止指導員が中心となって、啓発物（リーフレット、絆創膏、風船等）の配布、マスコット着ぐるみなどのぼり等を使用した街頭キャンペーンを実施し、薬物</p> |

# 山梨県

| 月 日  | 6月24日                                |
|------|--------------------------------------|
| 開催場所 | 主要駅前、ショッピングセンター等 計10ヶ所               |
| 活動主体 | 県、県薬物乱用対策推進本部、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、県警察本 |



福井県

乱用防止の呼びかけおよび国連支援募金活動を行った。

一部会場では、啓発パネルおよび薬物標本を展示したほか、厚生労働省による薬物乱用防止訪問啓発事業を活用した薬物クイズラリーおよび薬物撃退シューティングゲームを通じて、薬物乱用防止の啓発を行った。

②地域団体キャンペーン  
病院・診療所・歯科診療所、薬局・薬店等の各関係機関・団体および市町村にポスターの掲示および募金箱の設置を依頼し、キャンペーンの周知と国連支援募金への呼びかけを行った。

また、各学校で薬物乱用防止教室を実施し、若年層への薬物乱用防止について啓発を行った。

|      |     |     |                                                                                         |              |      |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|-----|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 月 日 | 長野県 | 部、警察署、市町村、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、医師会、歯科医師会、薬剤師会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、中学生・高校生、ボーイスカウト、ガールスカウト等 | 参加人員<br>495人 | 活動状況 | ①6・26ヤング街頭キャンペーン<br>県内4保健所1支所単位の各地区薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、各関係機関・団体等の協力を得る中で、参加学生代表による『ダメ。ゼッタイ。』普及運動」における街頭キャンペーン・厚生労働大臣メッセージの披露をはじめとした式典を開催した。それに引き続き、参加学生・ガールスカウトが中心となって、リーフレットその他啓発資材の配布等による薬物乱用防止の呼びかけを行うとともに、国連支援街頭募金活動を行った。併せて、ポスター、のぼり、横断幕を掲示し、普及啓発に努めた。 |
|      |     |     |                                                                                         |              |      | ②地域団体キャンペーン<br>運動期間中、各関係機関・団体や市町村役場等にリーフレットその他啓発資材等の配布を行うとともに、ポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。                                                                                                                                                         |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | タ飯田店前、JR木曽福島駅前、木曽青峰高等学校前、蘇南高等学校前、JR松本駅前、フレスポ大町、大町岳陽高等学校前、池田工業高等学校前、白馬高等学校前、綿半スーパーセンター須坂店、イオン中野店、飯山高高等学校前、長野駅前計15市町村19ヶ所                                                                                                                                                            |
| 活動主体 | 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動長野県実行委員会企画4機関・23団体<br>県、県薬物乱用対策推進協議会、地区薬物乱用対策推進協議会、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、県医薬品卸協同組合、県製薬協会、県医薬品登録販売者協会、県医薬品配置協議会、県保護司会連合会、県子ども会育成連合会、ライオンズクラブ国際協会334-E地区、国際ロータリー第2600地区、県ホテル旅館生活衛生同業組合、県美容業生活衛生同業組合、県クリーニング生活衛生同業組合、県理容生活衛生同業組合、県公衆浴場業生活衛生同業組合、日本ボーイスカウト長野県連盟、ガールスカウト長野県連盟 |
| 参加人員 | 715人                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 活動状況 | ①6・26ヤング街頭キャンペーン<br>県下19ヶ所において、ボーイスカウト・ガールスカウトの青少年や、薬物乱用防止指導員、ライオンズクラブ・ロータリークラブ会員、保護司、薬業関係者、行政機関職員等715人が、通行人23,030人に啓発用のチラシやポケットティッシュ等を配布して薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。<br>②地域団体キャンペーン<br>病院・診療所・歯科診療所、薬局・薬店、理・美容所、クリーニング店、ホテル・旅館、公衆浴場、自動車教習所等約9,000施設において、ポスターの掲示と一声運動を実施した。  |



長野県



山梨県

また、薬局・薬店約1,100店舗の店頭で募金箱を設置し、国連支援募金に協力した。

# 岐阜県

| 月 日  | 6月24日、25日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 岐阜市(2)、各務原市、瑞穂市、大垣市、池田町、美濃市、美濃加茂市、郡上市、多治見市、恵那市、高山市、下呂市計13ヶ所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 活動主体 | 岐阜県、岐阜市、郡上市、保健所、各地区薬物乱用防止指導員協議会、薬剤師会、登録販売者協会、医薬品配置協会、保護司会、ボーイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ、高等学校の生徒、警察署等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 参加人員 | 354人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 活動状況 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン</p> <p>JR岐阜駅前、岐阜メモリアルセンター長良川競技場やショッピングセンターなど県下13ヶ所にて、薬物乱用防止指導員をはじめとするボランティアが、会場を訪れた方に啓発資料のティッシュペーパーやパンフレット等を配布し、「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に薬物乱用防止を訴えるとともに、ボーイスカウト、ガールスカウトらが国連支援募金への協力を呼びかけた。会場周辺には「ダメ。ゼッタイ。」普及運動ののぼりを掲げ、参加者はタスキや啓発用帽子を着用して積極的に活動した。</p> <p>JR岐阜駅前会場及び岐阜メモリアルセンター長良川競技場では、「ダメ。ゼッタイ。」君の応援も得て若者へのPRに努めた。</p> <p>また、地デジデータ放送やフェイスブックを通じて、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及びキャンペーンの周知と、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。</p> <p>②地域団体キャンペーン</p> <p>岐阜県薬物乱用対策推進本部を構成する各団体、県内各高等学校・大学等に対して、ポスターの掲示や募金箱の設置等の協力依頼を行った。</p> <p>また、小学校、中学校、高等学校、大学等で開催し</p> |

ている薬物乱用防止出前講座において、児童、生徒に対して薬物に関する正しい知識と薬物乱用防止について啓発を行った。



静岡県



岐阜県

# 静岡県

| 月 日  | ①②6月26日、③④6月28日、⑤6月25日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | ①JR熱海駅(熱海市)②JR御殿場駅(御殿場市)③JR磐田駅(磐田市)④JR浜松駅(浜松市中区)⑤ヤマハスタジアム(磐田市)計5か所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 活動主体 | 静岡県、静岡県薬物乱用対策推進本部、静岡県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、静岡県薬物乱用防止指導員協議会、各市町、一般社団法人日本ボーイスカウト静岡県連盟、一般社団法人ガールスカウト静岡県連盟、ライオンズクラブ国際協会334-C地区、国際ロータリー第2620地区、国際ソロプチミスト静岡、一般社団法人静岡県医師会、一般社団法人静岡県歯科医師会、公益社団法人静岡県薬剤師会、静岡県医薬品登録販売者協会、公益社団法人静岡県病院協会、静岡県配置医薬品協議会、静岡県医薬品卸業協会、静岡県製薬協会、静岡県理容生活衛生同業組合、静岡県美容業生活衛生同業組合、静岡県クリーニング生活衛生同業組合、静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合、一般社団法人静岡県食品衛生協会、静岡県保護司会連合会、静岡県更生保護女性連盟、静岡県カラオケBOX協会、日本塗料商業組合静岡県支部 |
| 参加人員 | 109人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 活動状況 | <p>○6・26ヤング街頭キャンペーン</p> <p>・6月26日及び28日に県内のJR駅において、薬物乱用防止指導員やライオンズクラブ等の協力を得て、啓発用リーフレット、ポケットティッシュを通行者に配布し、広く県民に薬物乱用防止を訴えた。</p> <p>・6月25日にヤマハスタジアムで開催されたJリーグ</p>                                                                                                                                                                                                                              |

サッカーの試合会場において、来場者にポケットティッシュを配布するとともに、電光掲示板での動画の放映やハーフタイムに場内を周回して啓発を行い、薬物乱用防止を訴えた。

○地域団体キャンペーン

各市町及び関係団体等の協力を得て、県内各所に啓発用ポスターを掲示するとともに、募金箱を設置して国連支援募金への呼び掛けを行った。

## 愛知県

| 月 日  | (4月) 16日 (5月) 27日 (6月) 2、15、20、23、24、25、26、27、28、30日 (7月) 1、2、3、4、9、16、17、21、28、30、31日 (8月) 4、5、28日 (実施見込み分を含む)                                                                          |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 愛知県内 計44カ所 (実施見込み分を含む)                                                                                                                                                                   |
| 活動主体 | 愛知県、愛知県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、15地区薬物乱用防止推進協議会 (薬物乱用防止指導員、ライオンズクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウト、保護司会、更生保護女性連盟、各市町村、警察等)                                                                                   |
| 参加人員 | 1,441人 (実施見込み分を含む)                                                                                                                                                                       |
| 活動状況 | 6月25日に名古屋市中区の栄広場や地下街において、ボーイスカウト、ガールスカウト、大学生等のヤングボランティア40名が「ダメ。ゼッタイ。」君や県警の「コノハけいぶ」などのキャラクターの応援を得て啓発資材 (うちわ) を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。なお、啓発資材には愛知県の薬物乱用防止PR大使「薬物乱用ダメ。ゼッ隊」である地元アイドルのOS☆Uの画像を起用した。 |



三重県



愛知県

グセセンター、市民まつり会場及び駅周辺等で薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金活動を実施した。

その他、Jリーグ名古屋グランパスエイト試合開催時のパロマ瑞穂スタジアム、大相撲名古屋場所開催時の愛知県体育館、プロ野球中日ドラゴンズ試合開催時のナゴヤドーム、名古屋競馬場などで、啓発資材の配布、横断幕の設置、場内放送、電光掲示板標示等を行い、薬物乱用防止の周知を図った。

## 三重県

| 月 日  | 6月18日、23日、24日、26日、7月1日、3日、5日、6日、7日、9日、10日、12日、13日、14日、18日、20日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 四日市市立中部西小学校、四日市市総合会館、あさけプラザ、三重県四日市庁舎、四日市市富洲原地区、橋北地区、川島地区、JR桑名駅前、JR亀山駅前、JR井田川駅前、JR下庄駅前、JR関駅前、JR加太駅前、亀山高等学校、徳風高等学校、マックスバリュ亀山店、マックスバリュみずほ台店、オークワ亀山店、亀山エコー店、鈴鹿ハンター、ミスタートンカチ、亀山市総合保健福祉センター「あいあい」、近鉄白子駅前、近鉄久居駅前、近鉄津新町駅前、近鉄 (JR) 津駅前、津都ホテル、JR松阪駅前、パロミタス伊勢、イオンタウン伊勢ラパーク店、イオン名張店、アピタ伊賀上野店、JR尾鷲駅前、主婦の店相賀店、プライスカット海山店、オークワ紀伊長島店、主婦の店長島店、長島ショッピングセンターラルマーケット、サンバースト、瀬木山主婦の店、イオン熊野店、オークワ熊野店、道の駅パーク七里御浜、紀宝町マル井マート、計45ヶ所 |
| 活動主体 | 主催 三重県薬物乱用対策推進本部、三重県、四日市市、薬物クリーンみえ推進協議会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 参加人員 | 1,004人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 活動状況 | ①6・26ヤング街頭キャンペーン<br>県内各地の主要駅、ショッピングセンターなどで薬物乱用防止指導員や薬物乱用防止指導啓発団体を中心に、三重県薬物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ推進協議会を構成する団体等が官民一体となって、街                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

頭キャンペーンを行った。

ポスターの掲示、薬物標本を展示し、横断幕やのぼり旗を掲揚するとともに、厚生労働大臣のメッセージを読み上げ、高校生や県民にリーフレット、ポケットティッシュ、うちわ等の啓発資材を配布しながら、薬物乱用防止を訴えた。

他に、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動と併せて、街頭募金を行い、国連支援募金への協力を呼びかけた。

②地域団体キャンペーン

三重県薬物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ推進協議会を構成する団体等の協力を得て、ポスターの掲示、啓発資材の配布や一声運動の実施、店頭での募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。

## 滋賀県

| 月 日  | 6月24日                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 大津市（フォレオ大津一里山）、長浜市（イオン長浜店）計2ヶ所                                                                                                                                                                                                                                      |
| 活動主体 | 一般社団法人ガールスカウト滋賀県連盟、日本ボーイスカウト滋賀連盟、大津市大津少年センター、長浜市長浜青少年センター、滋賀県青少年補導センター連絡協議会、社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会、社会福祉法人大津市社会福祉協議会、一般社団法人滋賀県歯科医師会、一般社団法人滋賀県薬剤師会、一般社団法人滋賀県薬業協会、一般社団法人滋賀県医薬品登録販売者協会、滋賀県医薬品配置協議会、瀬田ライオンズクラブ、立命館大学、びわこ成蹊スポーツ大学、滋賀大学、滋賀県警察本部、長浜警察署、大津市保健所、滋賀県（業務感染症対策課・保健所）、他 |
| 参加人員 | 107人                                                                                                                                                                                                                                                                |

### 活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン

県内2ヶ所のキャンペーン会場において、キャンペーン実行委員会が中心となり街頭啓発を実施した。当日、会場には「ダメ。ゼッタイ。」君、滋賀県イメージキャラクターのキャップフィー、長浜警察署キャラクターのひよたんも参加した。各会場で、通行人に啓発資材のリーフレット、シャープペンを配布し、ボーイスカウト、ガールスカウトによる国連支援募金活動も併せて実施した。

また、大津会場では県内大学の学生が薬物乱用に関する童話「金色のリング」の上演や薬物乱用防止に関する標語作成のコーナーを設置し、若年層への薬物乱用防止を呼び掛けた。

②地域団体キャンペーン

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動啓発期間には、地域団体キャンペーンとして、病院、診療所、歯科診療所、薬局、薬店、ライオンズクラブ会員の施設等、地域団体の協力を得てポスターの掲示と一声運動を実施し、併せて店頭等に募金箱を設置して国連支援募金活動に協力した。



滋賀県

## 京都府

| 月 日  | 6月24日                                                                                                                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 京都市内繁華街4箇所<br>京都駅（アバンティ、ポルタ）、四条河原町、四条高倉、三条河原町                                                                                                                         |
| 活動主体 | きょうと薬物乱用防止行動府民会議<br>主な参画団体<br>京都府、京都市、京都府警察本部、京都府教育委員会、京都市教育委員会、公益社団法人ガールスカウト日本連盟<br>京都府支部、日本ボーイスカウト京都連盟、ライオンズクラブ国際協会335-1C地区、京都府薬物乱用防止指導員協議会                         |
| 参加人員 | 啓発対象者 20,000名<br>関係者 280名<br>△内訳▽<br>・薬物乱用防止指導員 116名<br>・大学生等 26名<br>・ガール、ボーイスカウト 46名<br>・その他府民会議参画団体 92名                                                             |
| 活動状況 | ①6・26ヤング街頭キャンペーン<br>京都駅及び京都市内繁華街4箇所において、府・市・府警関係者をはじめ、大学生、薬物乱用防止指導員、ボーイスカウト、ガールスカウト等が薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金への協力呼びかけを行った。                                               |
|      | ②地域団体キャンペーン<br>・各種関係団体の店頭等にポスターの掲示及び募金箱の設置を依頼し、キャンペーンの周知と国連支援募金への呼びかけを行った。<br>・その他、京都府各地区の薬物乱用防止指導員、警察職員及び各保健所職員等が、駅前、市街地及び商店街等での啓発資材の配布や、小中学校の児童、生徒を対象にした薬物乱用防止教室を実施 |

・「社会を明るくする運動」に薬物乱用防止指導員が多数参加し、薬物乱用防止活動をアピールした。  
(薬物乱用防止指導員 平成29年4月1日現在 474名)



京都府

| 活動主体                                            | 開催場所                                                     | 月 日                    |
|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------|
| ②地域団体キャンペーン<br>大阪府「ダメ。ゼッタイ。」普及運動<br>実行委員会構成メンバー | ①6月25日<br>②6月20日～7月19日<br>①J R天王寺駅中央コンコース<br>②府内各地域 計9ヶ所 | ①6月25日<br>②6月20日～7月19日 |

## 大阪府

### 参加人員

(大阪府警察・市町村・薬物乱用防止指導員協議会その他協力団体・企業等)  
①6・26国際麻薬乱用撲滅デー街頭キャンペーン 啓発者 約2,500人 関係者 35人  
②地域団体キャンペーン参加者 約7,450人 関係者約160人

### 活動状況

①6・26国際麻薬乱用撲滅デー街頭キャンペーン  
J R天王寺駅中央コンコースにおいて大学生による薬物乱用撲滅宣言を行うとともに、ボランティア(大阪大谷大学薬学部学生・国際ソロプチミスト大阪・なにわ等)協力のもと、J R天王寺駅中央コンコースに於いて啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。  
②地域団体キャンペーン  
「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中、各関係機関・団体および市町村にポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。  
また、府内各地では、街頭やイベント会場においてリーフレットその他啓発資材の配布を行い、薬物乱用防止を呼びかけた。



大阪府

| 活動主体                                            | 開催場所                                                     | 月 日                    |
|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------|
| ②地域団体キャンペーン<br>大阪府「ダメ。ゼッタイ。」普及運動<br>実行委員会構成メンバー | ①6月25日<br>②6月20日～7月19日<br>①J R天王寺駅中央コンコース<br>②府内各地域 計9ヶ所 | ①6月25日<br>②6月20日～7月19日 |

## 兵庫県



兵庫県

| 活動主体                                            | 開催場所                                                     | 月 日                    |
|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------|
| ②地域団体キャンペーン<br>大阪府「ダメ。ゼッタイ。」普及運動<br>実行委員会構成メンバー | ①6月25日<br>②6月20日～7月19日<br>①J R天王寺駅中央コンコース<br>②府内各地域 計9ヶ所 | ①6月25日<br>②6月20日～7月19日 |

を実施し、中播磨地区では、地域の主要駅である姫路駅周辺で、若者が多く集まる「姫路ゆかたまつり」での啓発活動を実施した。また、丹波地区では地元高校の協力を得て、啓発会場にて地元の学生と共に啓発活動を実施した。

その他の地区でも、駅前、ショッピングセンター等において、のぼり、横断幕の掲出、啓発パネルの展示、兵庫県のマスコット「はばタン」の着ぐるみ等により啓発効果を高めた。

活動参加者は、啓発用のビブスや帽子、Tシャツ、タスキ等を着用し、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」を合言葉に、通行人等に対してリーフレット、ボールペン、ウェットティッシュ等の啓発資材を配付し、薬物乱用の恐ろしさを訴えるとともに、国連支援募金活動を行った。

## 奈良県

| 月 日  | 6月17日                                                                                                                                                                                                                |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 近鉄奈良駅前前行基前広場 計1ヶ所                                                                                                                                                                                                    |
| 活動主体 | 奈良県、奈良県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、奈良県薬物乱用対策推進本部、奈良県警察本部、奈良県教育委員会、ライオンズクラブ国際協会335-C地区8R・9R、奈良県製薬協同組合、奈良県家庭薬配置商業協同組合、(一社)奈良県薬剤師会、(二社)奈良県医薬品登録販売者協会、奈良県医薬品小売商業組合、奈良県毒物劇物取扱者協会、奈良県家庭薬卸協同組合、奈良県医薬品卸協同組合、奈良県医薬品配置協議会、奈良県薬事団体連合会 等 |
| 参加人員 | 2,000人                                                                                                                                                                                                               |
| 活動状況 | ①6・26ヤング街頭キャンペーン<br>6月17日に近鉄奈良駅前前行基前広場にて、「6・26                                                                                                                                                                       |

ヤング街頭キャンペーン」を開催した。薬事関係団体・警察関係等の協力の下、啓発物品(リーフレット・キズバン・啓発用ティッシュ)を配布しながら薬物乱用防止運動を行った。奈良県警察本部少年課の学生ボランティアである少年フォローズ奈POLIを中心に活動を行い、薬物乱用防止についてのアナウンスを行った。なお、この活動については地元テレビの取材・報道がなされた。

②地域団体キャンペーン なし



奈良県

## 和歌山県

| 月 日  | 6月14、24、25日、7月3、6、8、10、11日                                                                                                  |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 和歌山市、岩出市、紀の川市、橋本市、海南市、有田市、有田郡湯浅町、有田郡有田川町、御坊市、日高郡美浜町、日高郡由良町、日高郡日高川町、田辺市、日高郡みなべ町、東牟婁郡串本町、東牟婁郡古座川町、東牟婁郡太地町、新宮市、東牟婁郡那智勝浦町 計29カ所 |
| 活動主体 | 和歌山県、和歌山県薬物乱用防止指導員協議会、和歌山県薬物乱用対策推進本部、                                                                                       |



和歌山県

| 参加人員                                                                                                                      | 関係機関、関係団体、一般社団法人ガールスカウト和歌山県連盟、和歌山県立医科大学ラグビー部、等<br>のべ 784人                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 活動状況                                                                                                                      | ①6・26ヤング街頭キャンペーン<br>県内9地区の薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、和歌山県立医科大学ラグビー部、一般社団法人ガールスカウト和歌山県連盟のヤングとともに和歌山県警察、和歌山海上保安部、田辺海上保安部、大阪税関和歌山支署、各少年センター、国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川、県内ライオンズクラブなどの関係機関・団体の協力を得て、駅前やショッピングセンターなどで、のぼりや横断幕を掲げ、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」を合い言葉に、リーフレット、キズバンド、ティッシュ、うちわなどの啓発物品を配布するとともに、国連支援募金活動を実施した。 |
| ②地域団体キャンペーン<br>後援団体等の協力により、啓発ポスターを店頭に掲示するとともに、医薬品関係業者、生活衛生関係業者の店舗や職場において、国連支援募金活動を実施した。また、学校において薬物乱用防止教室の開催及び啓発物品の配布を行った。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |

## 6.26 各地区の活動スナップ



北海道



青森県



岩手県



宮城県



秋田県



山形県



福島県



茨城県

## 6.26 各地区の活動スナップ



栃木県



群馬県



埼玉県



千葉県



東京都



神奈川県



新潟県



富山県

## 6.26 各地区の活動スナップ



石川県



福井県



山梨県



長野県



岐阜県



静岡県



愛知県



三重県

## 6.26 各地区の活動スナップ



滋賀県



京都府



大阪府



兵庫県



奈良県



和歌山県



鳥取県



島根県

## 6.26 各地区の活動スナップ



岡山県



広島県



山口県



徳島県



香川県



愛媛県



高知県



福岡県

## 6.26 各地区の活動スナップ



佐賀県



長崎県



熊本県



大分県



宮崎県



鹿児島県



沖縄県

# 薬物乱用防止キャラバンカーによる啓発活動の状況

～宝くじ号、こども霞ヶ関見学デーへ！～

## 一般啓発(イベント)

- 派遣先：こども霞ヶ関見学デー（厚生労働省）
- 派遣期間：平成29年8月2日(水)～3日(木)
- 参加者：2日間合計 454人

この「子ども霞が関見学デー」は、各府省庁が連携し、省庁見学や体験活動などを通じて、こどもたちが夏休みに広く社会を知るきっかけとすることを目的に毎年実施されているものです。

厚生労働省が掲げる今年のキャッチフレーズは「夏だ！試して、遊んで、学べる2日間」です。

当日は、キャラバンカー体験の他に保育士体験や医療・お薬に関する体験、おいしい水の飲み比べなど、夏休みの自由研究にも役立つ22のプログラムが実施されました。

当財団では毎年、厚生労働省からの要請に応じてキャラバンカーを派遣しています。



# 「服薬ゼリー」には、 医薬品メーカーとしての責任があります。

世界初  
35ヶ国と1地域で特許取得

推薦  
(公財)日本学校保健会

ゴクン!といえ  
ば  
龍角散

## 1 糖分や保存料が 入っていないこと。

薬の作用や吸収に  
悪影響を及ぼす  
可能性があります。



## 2 のどに張りつかない 流動性があること。

流動性がなく、  
粘着質のゼリーだと  
かえって誤嚥の危険性  
が高まりかねません。



流動性が  
あることが大切。粘着質のゼリー。  
※当社テスト



〈スティックタイプ〉25g 6本入り レモン味



〈チアパック〉200g レモン味

薬がつるんと飲める  
らくらく服薬ゼリー

株式会社龍角散 東京都千代田区東神田 2-5-12  
お客様相談室 0120-797-010  
10:00~17:00 (土・日・祝日を除く)

ご購入はこちら

龍角散 公式通販ショップ  
<https://ryukakusan.shop>



# 新薬物標本

販売価格：29,100 円 送料：実費

- ・健康に生きよう
  - ・小学生用読本
  - ・薬物乱用防止マニュアル Q&A
  - ・薬物乱用防止推進の手引き
- の4冊が同梱されます。  
啓発活動の資材としてご活用下さい。



手に取ってご覧いただけます

本体ケースサイズ：W425×D250×H60mm (取手含まず)

監修：(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター  
製造元：(株)日本医療器研究所製作

リアルな薬物標本を手に取りながらの  
指導は、現実感が強まり迫力が違います。

# 鳥取県

| 月 日  | 7月8日、16日、9日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 鳥取市（イオンモール鳥取北）<br>倉吉市（パールタウン）<br>米子市（イオン米子駅前）<br>計3カ所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 活動主体 | 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動鳥取県実行委員会、鳥取県、鳥取県警、鳥取県薬物乱用防止指導員東・中・西部地区協議会、ヤングボランティア                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 参加人員 | 東部（41人）、中部（33人）、西部（41人）<br>合計115人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 活動状況 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン<br/>鳥取県薬物乱用防止指導員地区協議会の会員、高校生のヤングボランティア等が中心となって、県内3地区で、ヤング街頭キャンペーンを実施し、地域住民に対し、リーフレットや絆創膏の啓発資材を配布するとともに、国連支援募金活動及び県・県警察本部所有の着ぐるみを使用して啓発活動を展開した。また、危険ドラッグの乱用防止を呼びかけるため、県が作成したDVDの放映や、マンガ形式の啓発パンフレットを配布するなど、若者に対する啓発に力を入れた。</p> <p>②地域団体キャンペーン<br/>また、各団体はもとより、各市町村及び県地方機関等にもポスター、募金箱等を送付し啓発に努めるとともに、国連支援募金への協力依頼を実施した。<br/>そのほか県政だより、県庁の電光掲示板等を用いて、広く薬物乱用防止の啓発に努めた。</p> |



鳥根県



鳥取県

# 鳥根県

| 月 日  | 6月24日、25日、28日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 松江市、雲南市、出雲市、仁多郡奥出雲町、大田市、浜田市、益田市、隠岐郡隠岐の島町 等<br>計10ヶ所                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 活動主体 | 鳥根県、鳥根県薬物乱用対策推進本部、カブスカウト・ボーイスカウト・ガールスカウト・中学生・高校生等のヤングボランティア、ライオンズクラブ、薬物乱用防止指導員等                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 参加人員 | 316人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 活動状況 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン<br/>県内10ヶ所において、カブスカウト、ボーイスカウト、ガールスカウト、中学生、高校生のヤングボランティアのほか、ライオンズクラブ及び薬物乱用防止指導員、各関係機関の協力を得て街頭キャンペーンを実施した。各参加者は、ショッピングセンターの入口等で「ダメ。ゼッタイ。国際協力薬物乱用をなくしましょう。」を合言葉に啓発資材を配布するとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。</p> <p>②地域団体キャンペーン<br/>市町村、警察署、医療機関、薬局等の協力によりポスターの掲示やリーフレット等啓発資材の配布を行ったほか、各機関の窓口へ募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。</p> |

## 岡山県

| 月 日  | 6月15日、21日、22日、23日、26日、28日、7月3日                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 「覚醒剤等薬物乱用防止指導員地区協議会（県下9地区）」管内<br>（岡山市、倉敷市、津山市、笠岡市、井原市、総社市、高梁市、新見市、備前市、真庭市、美作市、浅口市、和気町、勝央町において実施）<br>県、県警察本部、保健所、県覚醒剤等薬物乱用対策推進本部、県覚醒剤等薬物乱用防止指導員協議会（医師会、薬剤師会、保護司会連合会、少年警察協働員連合会、愛育委員会、理容生活衛生同業組合、食品衛生協会、ライオンズクラブ3361B地区）、同各地区協議会、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、同各支部<br>（後援等）県内の各税関支署、各海上保安部、各警察署等                |
| 活動主体 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 参加人員 | 約720人                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 活動状況 | 「覚醒剤等薬物乱用防止指導員地区協議会（県下9地区）」が中心となり、JR駅前、高等学校等県下19箇所において「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に薬物乱用防止啓発用資材（パンフレット、ポケットティッシュ、絆創膏、蛍光ペン等）を配布するとともに、覚醒剤等薬物乱用防止を呼びかけ、併せて国連支援募金を実施した。<br>また、29年度も高校生等ボランティアの積極的な協力があった。<br>〔参加学校〕<br>関西高等学校、就実高等学校、山陽女子中学校・高等学校、和気閑谷高等学校、備前緑陽高等学校、倉敷翠松高等学校、総社南高等学校、笠岡工業高等学校、岡山龍谷高等学校、井原市立高等学校、高梁高等学校、 |

高梁城南高等学校、高梁日新高等学校、新見高等学校、共生高等学校、勝山高等学校、津山工業高等学校、津山商業高等学校、勝間田高等学校、林野高等学校、

## 広島県

| 月 日  | ① 6月24日、25日、7月2日、9日<br>② 6月20日～7月19日までの試合日に放映                                                                                                                                        |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | ① 県内9ヶ所<br>（広島市、廿日市市、呉市、東広島市、三原市、福山市、三次市、安芸太田町、府中町）<br>② MAZDA ZOOM-ZOOM スタジアム広島（広島市）                                                                                                |
| 活動主体 | 広島県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会                                                                                                                                                               |
| 参加人員 | 813人<br>ハ内訳<br>ヤングボランティア 390人<br>指導員 132人<br>ライオンズクラブ会員 88人<br>行政関係者 97人<br>その他 106人                                                                                                 |
| 活動状況 | ① 6・26ヤング街頭キャンペーン<br>薬物乱用防止の啓発物品を配布するとともに、募金活動を行った。<br>なお、広島市地区においては、広島市立基町高等学校吹奏楽部による演奏及び広島桜が丘高等学校のヤングボランティアによる啓発・募金活動を行った。<br>② 野球場における広報<br>マッダズ・ズームスタジアム広島において電光掲示板による広報啓発を実施した。 |



広島県



岡山県

# 山口県

| 月 日  | 6月3日、10日、17日、18日、25日、7月8日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 岩国市・柳井市・平生町・下松市・山口市・防府市・宇部市・山陽小野田市・長門市・萩市・下関市の10市1町（15か所）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 活動主体 | 中学生・高校生のヤングボランティア<br>山口県薬物乱用防止推進員協議会等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 参加人員 | 502人<br>（うちヤングボランティア221人）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 活動状況 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン</p> <p>啓発用たすきや帽子を着用したヤングボランティア及び山口県薬物乱用防止推進員地区協議会の会員等が中心となって、「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用を合い言葉に買物客等（約11,500人）に対し、薬物乱用防止のリーフレットや啓発資材（ティッシュ・絆創膏・うちわ・カレンダー等）を配布した。</p> <p>また、各地域でのぼり、ポスター、アートバルーン等を活用したり、クイズを実施する等、子ども達にも薬物乱用の恐ろしさを広く訴えた。</p> <p>なお、国連支援募金の呼びかけも併せて行い、薬物乱用防止に関する理解と協力を求めた。募金額は241,359円であった。</p> <p>②地域団体キャンペーン</p> <p>各市町、各種関係機関・団体等の協力を得て、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動のポスターの掲示や募金箱の設置等国連支援募金活動を実施した。</p> |



徳島県



山口県

# 徳島県

| 月 日  | 6月17日、24日、25日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 徳島市、阿南市、吉野川市、美馬市、三好市、海陽町合計6地区8カ所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 活動主体 | 県、県薬物乱用防止協議会（県下6地区協議会）、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、中学生、高校生）等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 参加人員 | 318名<br>薬物乱用防止指導員101名、ヤングボランティア94名、その他123名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 活動状況 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン</p> <p>県内6地区の薬物乱用防止地区協議会を活動主体として、薬物乱用防止指導員のほか、中学生、高校生をはじめとするヤングボランティア、各警察署、ライオンズクラブ等の関係機関・関係団体の協力を得て、県下6地区8カ所でヤング街頭キャンペーンを実施した。人が集まる場所（量販店等）をキャンペーン会場として、薬物乱用防止を訴える横断幕、のぼり等を掲げ、「薬物乱用はダメ。ゼッタイ。国際協力薬物乱用をなくしましょう。」を合い言葉に、来場者等に対して啓発用パンフレット、ポケットティッシュ、うちわ等の啓発資材を配布し、薬物乱用防止を訴えた。併せて、国連支援募金の呼びかけも行った。</p> <p>また、大学生がパーソナリティを務めるラジオ番組を活用し、キャンペーンの取材やイベント体験などをもとに番組の制作・放送を行った。</p> <p>②地域団体キャンペーン</p> <p>薬物乱用防止地区協議会及び薬物乱用防止指導員を活動主体として、県内市町村役場、各事業所、店舗等の協力を得て、ポスター等を掲示するとともに、来場者等に対して薬物乱用防止を訴える一声運動を実施した。</p> |

香川県

| 月 日  | 6月26日、7月2日、3日、7日、8日、16日                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 高松中央商店街、高松市仏生山町、観音寺市・三豊市一円、JR高瀬駅前、観音寺街、イオンモール綾川、オリーブタウン DCMダイキ催事場 計7カ所                                                                                                                                                                                                                       |
| 活動主体 | 香川県、各保健所薬物乱用防止対策連絡協議会、香川県麻薬・覚せい剤・シンナー禍対策推進員、市町、警察署、保護観察所、税関支署、海上保安署、ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト、少年育成センター、更生保護女性会、保護司会、薬剤師会、小学生、中学生、高校生、教員等                                                                                                                                                            |
| 参加人員 | 約1,100人                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 活動状況 | 県下4保健所の薬物乱用防止対策連絡協議会が中心となり、市町、警察署、ライオンズクラブ等の関係機関・民間団体の協力を得て、県内の主要な繁華街や駅前において、横断幕やのぼりを掲げ、啓発用ジャンパー、たすきを着用し、リーフレット、ポケットティッシュ、うちわ等の啓発資材を配布しながら、薬物乱用の恐ろしさを訴えた。また、地元の小・中・高校生も多数参加し、啓発資材の配布や薬物乱用防止の宣誓など、積極的に啓発活動を行った。<br>街頭キャンペーンを実施するに当たり、地域の夏祭りなどのイベントと合同での実施や、通勤・通学時間帯に駅前で実施するなど、効果的な活動になるよう努めた。 |



香川県

愛媛県

| 月 日  | 6月14日、7月3日、8日、12日、20日、22日、23日                                                                                               |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 四国中央市、新居浜市、今治市、松山市、八幡浜市、宇和島市の計8ヶ所                                                                                           |
| 活動主体 | 愛媛県、愛媛県薬物乱用防止指導員協議会（愛媛県保護司会連合会、ライオンズクラブ、愛媛県薬剤師会、愛媛県農業協会、愛媛県少年警察ボランティア協会、愛媛県配置薬協、愛媛県ジュエネリック販売協会、愛媛県登録販売者協会）愛媛県警察本部、愛媛県教育委員会等 |
| 参加人員 | 1,309名                                                                                                                      |
| 活動状況 | 薬物乱用のない社会環境づくりを目指し、「麻薬・覚せい剤・シンナーの乱用をなくそう」の横断幕を先頭に、県警本部の音楽隊等も参加し、愛媛県イメージ                                                     |



愛媛県

アップキャラクターみきゃんやえひめ南予観光PRキャラクターにゃんよ等の着ぐるみパフォーマンスを交えながら、各地の商店街等にて街頭パレードを実施した。街頭パレードでは、リーフレット、絆創膏やポケットティッシュ等の啓発資材を配布して、薬物乱用防止を広く県民に呼びかけるとともに、国連支援のための街頭募金活動も併せて行った。

また、パレードには関係団体（愛媛県医薬品卸業協会、愛媛県医療機器販売業協会、愛媛県製薬協会等）からの参加も多数あり、啓発活動を総合的・広域的に推進することに繋がっている。これらパレード等の模様は地元紙等のマスコミで取り上げられ、薬物乱用防止に対する関心がより深まった。

なお、松山市では、高校生87名が一日薬物乱用防止指導員に委嘱され、大学生33名らと共にパレード及び街頭募金活動に参加。八幡浜市及び宇和島市でもボランティアの高校生ら（19名、23名（うち中学生4名））がパレードや募金活動に参加した。今治市では、高校の文化祭でのキャンペーン時に薬物乱用防止クイズを実施し、参加者に楽しみながら薬物問題の知識を深めてもらった。

## 高知県

| 月 日  | 6月17日、18日、24日、7月3日、21日、25日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 香南市・高知市・日高村・佐川町・越知町・仁淀川町・いの町・四万十町・宿毛市（計9市町村）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 活動主体 | 高知県、高知県薬物乱用防止推進連合協議会、東部・中央東・高知市・中央西・高松・幡多の各地区薬物乱用防止推進協議会、ヤングボランティア（ボーイスカウト、小学生、中学生、高校生、大学生等）、民生委員、保護司、ライオンズクラブ国際協会336-A地区、関係行政機関職員                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 参加人員 | 約590人（うち、ヤングボランティア131人）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 活動状況 | 県下6地区の薬物乱用防止推進協議会が中心となり、ヤングボランティア等の協力を得て、パレード等の街頭キャンペーンを実施。リーフレットや薬物乱用防止標語入ポケットティッシュなどの啓発資材の配布を行いながら、広く県民へ薬物乱用防止を訴えと共に、国連支援募金への呼びかけを行った。<br>高知市地区においては、市内商店街アーケードにて、高知県イメージキャラクターの「くろしおくん」等のさぐるみや高知県警察音楽隊の演奏を先頭にパレードを行い、その後、ボーイスカウト、中学生、高校生及び大学生のヤングボランティアを中心に、若者から若者への啓発活動及び募金活動を実施した。<br>他の地区においても、ブラスバンドによる演奏を交えながら、量販店等で街頭キャンペーン及び募金活動を実施するなど、薬物乱用防止への理解と募金への協力を呼びかけた。<br>また、今後も地域の夏祭りやイベント、「社会を明るくする運動」の日程に合わせて、地域や他団体と連携して順次街頭キャンペーン及び募金活動を行い、薬 |

物乱用防止の啓発を行う予定。



福岡県



高知県

## 福岡県

| 月 日  | 6月19日、23日、24日、25日、27日、7月1日、2日、4日、11日、13日、14日                                                                                                                                                                                                                                    |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 北九州市、福岡市、大牟田市、久留米市、その他保健福祉（環境）事務所管内（筑紫、糸島、粕屋、宗像・遠賀、嘉穂・鞍手、田川、北筑後、南筑後、京築）延べ19か所                                                                                                                                                                                                   |
| 活動主体 | 県、県薬物乱用対策推進本部、ライオンズクラブ国際協会337-A地区、県麻薬協会、（公社）福岡県医師会、（一社）福岡県歯科医師会、（公社）福岡県薬剤師会、（一社）福岡県医薬品登録販売者協会、福岡県医薬品卸業協会、（公社）福岡県医薬品配置協会、（公社）福岡県製薬工業協会、福岡県医療機器協会、福岡県保護司会連合会、福岡県更生保護女性連盟、福岡県BBS連盟、日本ボーイスカウト福岡県連盟、（一社）ガールスカウト福岡県連盟                                                                 |
| 参加人員 | 1,204人                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 活動状況 | 6月17日にレベルファイブスタジアムで開催されたJリーグの試合会場で来場者に啓発用リーフレット、ポケットティッシュを配布するとともに、試合開始前にアビスパ福岡選手とアイドルグループLinQによる「ダメ。ゼッタイ。」決意表明、ハーフタイムに場内を行進し、薬物乱用防止を訴えた。<br>また、県下延べ19か所において、ボーイスカウト・ガールスカウトを中心に各協力団体・関係機関のボランティアの参加を得て、のぼり・横断幕を掲げ、啓発資材の配布、国連支援募金等を実施した。<br>会場によっては、高等学校吹奏楽部及び郷土芸能部による演技等も実施した。 |

# 佐賀県

| 月 日  | 7月8日、13日、14日、15日、22日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 佐賀市、鳥栖市、唐津市、武雄市、伊万里市 計6ヶ所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 活動主体 | 佐賀県、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、薬剤師会、保護司会連合会、少年補導員連絡協議会、地域婦人連絡協議会、高等学校、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、BBS連盟、ボーイスカウト、ガールスカウト、地域婦人連絡協議会、警察署、カラオケスタジオ防犯協会等                                                                                                                                                                                                                            |
| 参加人員 | 延べ497名（うちヤング216名）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 活動状況 | <p>①ヤング街頭キャンペーン<br/>商業施設や駅周辺等において、高校生やボーイスカウト、ガールスカウト等のヤング、及び関係機関、協力団体の参加を得て、リーフレット、絆創膏や標語入ポケットティッシュなどの啓発資材を配布し、一声運動により通行人等に薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金を実施した。</p> <p>7月8日に行われたJ1サガン鳥栖の試合時に、会場周辺で啓発資材の配布、国連支援募金を実施すると共に、場内に啓発用の看板を設置した。また、ハーフタイム時に横断幕のぼり旗をもって場内を一周し、啓発を行った。</p> <p>②地域団体キャンペーン<br/>各協力団体、市町、県警本部、県庁各機関等において、ポスターの掲示による啓発や募金箱の設置により国連支援募金活動を実施した。</p> |



長崎県



佐賀県

# 長崎県

| 月 日  | 6月24日、25日、7月2日、3日、8日、15日、16日、20日、24日、25日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 佐世保市、長崎市、新上五島町、杵岐市、佐々町、諫早市、時津町、五島市、対馬市、島原市、合計7市3町10ヶ所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 活動主体 | 長崎県薬務行政室、薬物乱用防止指導員協議会、長崎県警察本部、長崎県薬剤師会、長崎県医薬品登録販売者協会、長崎県保護司会連合会、長崎県防犯協会連合会、ライオンズクラブ国際協会337-C地区、長崎県医薬品配置協会、日本ボーイスカウト長崎県連盟、長崎県PTA連合会、長崎BBS連盟、長崎税関、純心女子高等学校、各市町等                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 参加人員 | 548人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 活動状況 | <p>①6・26「ダメ。ゼッタイ。」ヤング街頭キャンペーン<br/>県、薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、関係機関・民間団体等の協力を得て、県下10ヶ所において実施した。</p> <p>人が多く集まるアーケード・大型店舗、また、J2リーグ公式戦スタジアム前等を会場に、啓発用のぼり、啓発用パネル、県内中・高校生から募集した「薬物乱用防止推進ポスター」入賞作品を展示し、キャンペーンをおこなった。</p> <p>参加者は啓発用のタスキ・帽子を着用し、「薬物乱用はダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、通行人、買物客等に対し、啓発資材（パンフレット・ポケットティッシュ・風船等）を配布し、また、同時に各団体の地元小中高生等が中心となり国連支援募金への協力を行い、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。</p> <p>②地域団体キャンペーン<br/>各団体の協力を得て関係施設に啓発用ポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し薬物乱用防止を訴えた。また、地域で開催される集会、会合等に参加し、啓発</p> |



● 青少年への啓発活動  
今年度の新たな事業として6月2日に開催された県高校総体開会式会場において薬物乱用防止啓発メッセージを大型ビジョンで上映し、競技場内に「ダメ。ゼッタイ。」の横断幕の掲示を行い来場者に対する啓発を行った。また、県内自動車学校・自動車教習所・コンビニ・イオンの店舗等若者が多く集まる場所でポスターを掲示し、チラシを設置した。

従来からの事業として7月7日から7月23日にかけて開催された第99回全国高等学校野球選手権長崎県大会会場（長崎市、佐世保市）において、薬物乱用防止啓発メッセージを大型ビジョンで上映するとともに、競技場内に「ダメ。ゼッタイ。」の横断幕横断幕を設置し、来場者に対する啓発を行った。また、大会の主催者に依頼し、来場者が入場する際、啓発資材（パンフレット）を配布してもらった。

## 熊本県

| 月 日  | 6月20日～7月19日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 県内一円                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 活動主体 | 熊本県、熊本県薬物乱用対策推進本部、熊本県薬物乱用防止指導員連合協議会、ライオンズクラブ国際協会3371E地区、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動熊本県実行委員会、各市町村、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、（公社）熊本県医師会、（二社）熊本県歯科医師会、（公社）熊本県薬剤師会、（一社）熊本県医薬品登録販売者協会、（一社）熊本県医薬品配置協会、熊本県製薬協会、熊本県医薬品卸業協会、熊本県歯科用品商組合、日本薬局協励会熊本県支部、阿蘇製薬（株）、（株）再春館製薬所、リパテップ製薬（株）、熊本県保護司会連合会、熊本県防犯協会連合会、熊本県少年警察ボランティア連絡協議会、熊本県社会教育委員連絡協議会、熊本県地域婦人会連絡協議会、熊本県更生保護女性連盟、日本ボーイスカウト熊本県連盟、ガールスカウト熊本県連盟、等 |
| 参加人員 | 444人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 活動状況 | ①6・26ヤング街頭キャンペーン<br>熊本市及び県下保健所管内の地区薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、大型商業施設等において、小・中・高校、ボーイスカウト及びガールスカウト等のヤングボランティア、薬物乱用防止指導員、県職員、県警職員、税関職員、教育委員会及び市町村職員が、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に街頭キャンペーンを実施し、啓発パンフレット、啓発資材等の啓発資材を配布するとともに国連支援募金への協力を呼びかけた。                                                                                                                                          |



熊本県

②地域団体等キャンペーン  
熊本県薬物乱用防止対策本部本部員、市町村、薬局・医薬品販売業者、病院、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動後援団体、県警本部及び各警察署、中学校、高等学校、大学・高专、地域振興局、教育事務所、自衛隊駐屯地等の各種団体・機関において、ポスターの掲示による啓発及び国連支援募金への協力依頼を行った。

# 大分県

| 月 日  | 7月1日（6月22日、24日、25日、26日、30日にも実施）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 大分県内8地域 12カ所                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 活動主体 | 大分県及び大分県警察本部                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 参加人員 | ボーイスカウト、ガールスカウト、高校生、大学生、薬物乱用防止指導員、ライオンズクラブ、業界団体、大分県カラオケBOX協会、その他のボランティア団体 計595人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 活動状況 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン</p> <p>本キャンペーンは、県薬務室、各保健所等が県内8地域で、薬物乱用防止指導員、ボーイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ等のボランティア団体の協力を得て、盛大に行われた。</p> <p>参加者は、「ダメ。ゼッタイ。」たすきを着用し、ボーレン、絆創膏、パンフレット等啓発資材を通行人に配布し、街頭啓発を行うとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。</p> <p>特に、大分・由布地区では、大分県警察本部と共催で実施し、若者に対する啓発を盛り上げるため、「ダメ。ゼッタイ。君のマスクットを用いて啓発を行った。」</p> <p>また、「ダメ。ゼッタイ。君の応援として大分県、大分県警察本部、大分税関支署のマスクットも参加し、大分県警察音楽隊の演奏と共に、啓発活動を大いに盛り上げた。</p> <p>会場となった広場では、視聴覚教材等を登載した薬物乱用防止広報車「ハッピースマイル21」を用いた啓発や横断幕、のぼり、ポスター等による啓発も実施し、道行く人たちに「薬物乱用防止」をアピールした。</p> <p>②地域団体キャンペーン</p> <p>参加を呼びかけた店舗等の店頭「ダメ。ゼッタイ。」ポスターの掲示と同募金箱を設置し、期間中交通量の多い大分市内の歩道橋2カ所に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動横断幕を掲示し、啓発活動を行った。</p> |



宮崎県



大分県

# 宮崎県

| 月 日  | 6月24日                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 宮崎市                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 活動主体 | 宮崎県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会<br>宮崎県薬物乱用防止指導員協議会<br>宮崎レオクラブ、宮崎フェニックスレオクラブ、ガールスカウト、宮崎県カラオケボックス協会、宮崎市、宮崎県警、宮崎県                                                                                                                                                                  |
| 参加人員 | 計 約170名                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 活動状況 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン</p> <p>県庁前にて出発式を行い、高校生4名が内閣府特命担当大臣メッセージを代読した。</p> <p>続いて、参加者全員が啓発用タスキを着用し、横断幕とのぼり旗を持ち「薬物乱用は、ダメ。ゼッタイ。」と呼びかけながら、県庁前から繁華街デパート前までの約1kmをパレードした。</p> <p>その後、繁華街デパート前を中心にパンフレット等の啓発資材の配布と国連支援募金活動を実施した。</p> <p>②地域団体キャンペーン</p> <p>関係団体等による国連支援募金活動の実施</p> |



鹿児島県

| 月 日  | 6月10日、24日、7月1日、8日、10日、15日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 鹿児島市・指宿・加世田・伊集院・川薩・出水・大口・始良・鹿屋・志布志・西之表・屋久島・名瀬及び徳之島保健所地区計14地区                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 活動主体 | 県、県薬物乱用対策推進地方本部、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動県実行委員会、各薬物乱用防止指導員地区協議会、ボーイスカウト、ガールスカウト、中・高校生、その他関係機関・団体                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 参加人員 | 1,037人（うちヤングボランティア413人）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 活動状況 | <p>①6・26ヤング街頭キャンペーン</p> <p>「ダメ。ゼッタイ。」普及運動月間中、県下、14地区の薬物乱用防止指導員地区協議会が中心となり、中・高校生等及び関係機関・団体の協力を得て、繁華街や大規模店舗等において、のぼり、横断幕を設置し、啓発用パンフレット等を通行人に配布して、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、国連支援募金活動を実施した。</p> <p>また、県広報番組においてキャンペーンの様子を放送し、本運動の周知及び普及啓発を図った。</p> <p>②地域団体キャンペーン</p> <p>後援団体等の協力を得て、募金箱の設置やポスターの掲示を行うとともに、各種研修等において啓発活動を展開した。</p> <p>その他、6月10日に県医薬品配置協会主催による「第6回（通算25回）チャリティースポーツ大会」が開催され、グラウンドゴルフを通じて、参加者が国連支援募金を行った。</p> |



沖縄県



鹿児島県

沖縄県

| 月 日  | 6月24日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催場所 | 那覇市、名護市、北谷町、豊見城市、宮古島市、石垣市計6ヶ所                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 活動主体 | 県、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、薬物乱用防止協会支部、中学生、高校生、ガールスカウト、ボーイスカウト、その他関係機関・団体                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 参加人員 | 388人                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 活動状況 | <p>県内6ヶ所において、ヤングボランティア及び薬物乱用防止指導員等を中心にパンフレット等啓発資材を通行人に配布する街頭キャンペーンを実施するとともに、国連支援街頭募金を実施した。</p> <p>期間中、街頭キャンペーン以外に次のことを実施した。</p> <p>①地域団体キャンペーン</p> <p>②国連支援募金</p> <p>③県の広報機関を利用した普及啓発（電光広報塔による広報、県広報誌への掲載）</p> <p>④一般乗合バスのラッピングバスの運行・モノレール車内広告等による普及啓発</p> <p>⑤市町村への協力呼びかけ（国連支援募金及びポスター等の掲示）</p> <p>⑥県内各関係機関への普及・啓発依頼</p> |

## 「過去からの物語」 シリーズⅦ

### 「過去に埋もれて： 1900年代初頭～もうひとつの麻薬密輸の物語」

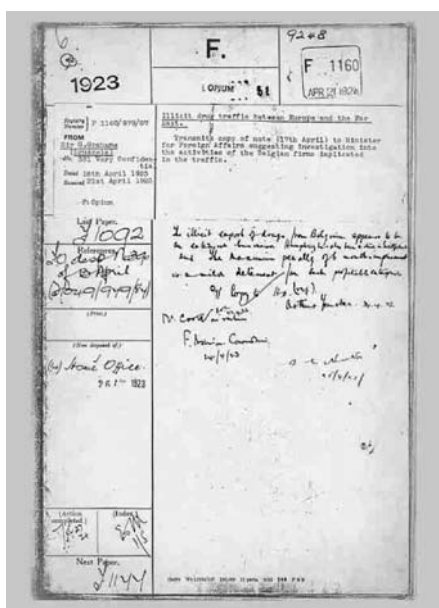
麻薬・覚せい剤乱用防止センター理事 前国連薬物・犯罪事務所(UNODC)事務局長特別顧問  
元UNODC東アジア・太平洋地域センター代表 元国際麻薬統制委員会(INCB)事務局次長

藤 野 彰

ロンドン、1923年8月14日付、英国内務省より外務次官宛書簡<sup>①</sup>、機密、「内務大臣の命により、日本企業数社による麻薬密輸の事案についての内務省書簡440, 713/43に關し、それに同封した覚書にある情報に付け加えられるべき新たな書簡を入手したことをお知らせする。…当該書簡には、日本の組織による非合法的な販売目的のために、神戸市播磨町7丁目居住のC. S. C.<sup>②</sup>が英国製モルヒネを獲得しようとする企てが暴露されている。」

この事案は、1900年代初頭において、日本企業が関与して、少なくとも3ヶ国を経由しながら、医療目的の「合法的」な流通過程から「非合法」なルートへ、モルヒネを「横流し」しようとする企てのひとつの例である。関連当局間で交わされた一連の通信から、当該人物らが監視の対象であったことがわかる。前記の書簡は、神戸在住の外国籍の人物からニューヨークへ送られており、モルヒネの「横流し」はイギリス国内でなされることになっていた。

従って、英国内務省は外務省に対してこう提案した。神戸で投函されたC. S. C.からの手紙にあるように、ニューヨーク在住の人物らが英国の企業に対してモルヒネの「横流し」を示唆すること、が、英国でと同様にアメリカ合衆国法においても犯罪となるかどうかを、アメリカ



英国外務省機密ファイル  
「ヨーロッパ-極東間の麻薬密輸、1923年」

① 英国公文書館、外務省文書、ファイルFO 371/9248 63344, no. 169。  
② 原文にはフルネームが記載されている。

カ政府に問い合わせるべきだと。

1900年代初頭において、国際的な捜査に関する通信や情報交換は、少なくとも捜査の初期段階では、それぞれの外務省経由の「外交ルート」<sup>③</sup>を使って行わざるを得なかった。今日では、捜査当局間で直接コネクタクトするルートが、ほとんどの国の間で確立しているが、この当別の省庁を経由しなければなかった国際捜査は、さぞもどかしく手間のかかったものであったに違いない。

薬物規制のための国際体制が確立していない初期の頃には、主要な国々の間でも、他の国の法律の詳細が常にわかっていないわけではなかったし、国境を越えた捜査や司法協力の手立ても確立していなかった。しかし、残されている機密資料からは、すでに100年前、犯罪組織が国際的に暗躍していたことを知ることができる。

そこで、1930年6月30日付の神戸から出されたある手紙が、下記のように述べているのは、興味深い。

「諸君、あなた方が出発前に、もし例え一日のみであったとしても、私を訪問するという約束を果たさなかったことについて、極めて失望している。そうしなかったことで、私を実に厄介な立場においてしまったのだ。というのも、世界のこの地域で同種のものとしては最も大きい組織のひとつの取締役とあなた方が会えるよう、会議を開くための手配を全て済ませたところだったからだ。この組織は、そのメンバーを主な貿易港の全てに配置しているし、際限のない資金の裏打ちがある。」<sup>④</sup>

この手紙は続けて、「前記の組織は：1ポンド錫缶詰めで、それがさらに錫で内張してあるケースに収納された、塩化モルヒネ・パウダーを取り扱うことに大いなる興味を示している」と述べ、具体的な条件を提示している。さらに、例えばラベル表示はどうあるべきかにまで触れる。

「それぞれの缶には、体裁の良い赤ラベルをつけ、その品目を何と呼ぶかについては、ひとつ、あるいはそれ以上の発注があった際に、決めることとしよう。まずどれか大手のラベル印刷会社から、在庫を少しばかり確保しておくことを勧める……」

手紙は、「組織」の性格についてもコメントして、下記のある事件にも触れていた。それは当時、既に「国際犯罪組織」が存在していたことを強くうかがわせた。

「この組織は、ごく広い範囲で力を持っているのだ。3年ばかり前、現在はまだ無くなった会社が組織のビジネスを請け負おうと、3度ほど出荷をしたことがあるが（筆者註：麻薬だと思われる）、これは満足のいくものであった。」

「しかし4度目には、彼らは代替品を送りつけて来たにもかかわらず、同じ料金を引き出していったのだ。その夜、その会社の現地代表は貨物客船に滑り込んで、やがて順調にサンフランシスコに到着することはできた。約ひと月後、彼は失踪し、その行方が知られることはなかった……」<sup>⑤</sup>この手紙では、当該人物が「消された」とは明確に触れて

③ 外交ルートであったが故に、幸いなことに、筆者が例えば英国公文書館で調べた文書が開示されたのであった。英国内務省の文書は、100年非公開というのも多々あったが、同じ事例を扱った外務省文書は、多くは30年ほどで開示されていたのであったから。

④ 英国公文書館、外務省文書、ファイルFO 371/9248 63344, no.172。この結構長い段落は、原文ではなんとただの一文で構成されていた。それを直訳したのでは、訳がわからなくなるので、分かち書きにした。また、文法上の間違いとまで言えるものではなかったが、幾つかの大字の使い方に不自然な点がみられ、英語を母語としている者ではないと思われた。

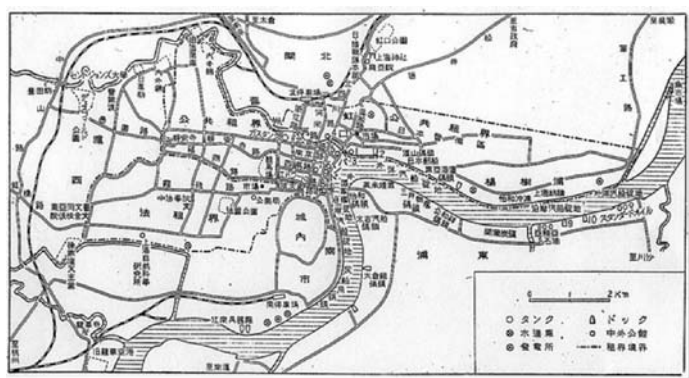
⑤ この手紙の引用部分は、これも原文では、ただひとつの文章で構成されており、不自然な句読点を続けて打っていることからみても、英語を母語とする人物ではないことが分かる。一世紀前、既に広がっていた、国境を越えた犯罪の証明である。

はいないものの、その書きぶりからは「組織」が手を下したのだと推定できる。

この時代、アメリカにおいては禁酒法<sup>⑥</sup>が施行されて、組織犯罪が跋扈していた時期であった。しかしながら、手元にある資料では、国際的な麻薬密輸に関わった幾つもの組織と、アメリカ国内でこの時期に勢力を振るった犯罪組織との、具体的な関連までは明らかではない。

本稿冒頭に引用した1923年8月14日付機密書簡に続いて、その10日後に英国内務省から発信された、「ヨーロッパと極東の間での麻薬密輸への関与が疑われる日本企業」に関するもう一通の機密書簡は、他の幾つかのヨーロッパ企業が関わっていることを明らかにして、ドイツのフライブルグ・バーデン<sup>⑦</sup>所在のドイツ企業を個別に名指しする。<sup>⑧</sup>

書簡は続けて言う、「……そして、イギリスの郵便ルートを経由してこの会社に宛てられた全ての郵便と電報を監視した結果、（このドイツの会社は）少なくともこれ以前の半年間に、上海在住の（日本名を名乗る<sup>⑨</sup>）人物から疑わしい性質の電報を多数受け取っていた。」この人物については、手元にある資料からは特定できないものの、日本人がこの時期にヨーロッパから極東への麻薬の密輸に深く関わっていたことは明らかであり、さらには犯罪組織としての関与を強くうかがわせた。



上海地図、上海共同租界工部局年報1939年版

その少しばかり前、英国内務省からもう一通、別の機密書簡が投函された。この文書は、「ヨーロッパと極東の間で、麻薬密輸に深く関わっており」、「既に起訴された麻薬売買人犯と密接に協力してきた」あるベルギーの企業について触れている。続けて、ベルギーにおける関連取引についてはベルギー政府にすでに通報した<sup>⑩</sup>と述べる。この時期には、国境を超える捜査を行う手はずが整っていたことが分かる。

この「過去からの物語」シリーズで度々触れたように、1世紀前のあの時代、まずは合法的に製薬会社によって造られた麻薬が、あちこちらの国々を経由する途中で、非合法的なルートへ、多量に、かつ頻繁に、「横流し」されていたのであった。従って、各国の政府当局は個別に様々な企業の行動を注意深く探っていたのであるし、また、既に国際的な捜査が要求されていたのだ。

先に触れた機密書簡などからは、密輸に関与する会社に気取られることなく、各国当局はその動向を綿密に監視していたことが明らかである。そして、各国当局間の情報交換は、迅速で



上海共同租界の中心地・外灘（バンド）、1928年

⑥ 1922～1930年。

⑦ Freiburg, Baden

⑧ 英国公文書館、内務省文書、ファイル FO 371/9248 63344, no.181、

外務次官宛書簡1923年8月24日付。

⑨ 原文では本名が記載されている。

⑩ 英国公文書館、内務省文書、ファイル FO 371/9248 63344, no.178、外務時間宛書簡1923年8月17日付。

あった。

筆者がはるか後年、新条約に基づいて、「麻薬」などを密造するのに必要な原料である「前駆物質」などの国際規制の国連における責任者となった時、我々のチームは先人たちの努力と同じく、迅速な国際的な情報交換のメカニズムを作り上げることに腐心した。思い起こせば、その時、世界の様々な国の担当官らはただ官僚的な考えに終わることなく、情熱を持って、新しいシステムを作り上げるのに創造的な力を注いだのだ。1世紀の時を超えて、またも熱い時代であった。

それはさておき、前記の英国内務省機密書簡が出されて一週間後、9月1日に日本では関東大震災が襲った。このような時代背景のもと、日本人の関与も含んで、国際的な組織犯罪が麻薬密輸に暗躍していた。

そしてこの時代、麻薬の規制に関する国際条約は、未だ、拘束力のある「輸出入許可証」の制度を確立してはいなかったし、犯罪組織が介入するからには、例えば文書を偽造することによって、多量の麻薬を非法なルートに「横流し」することなどは容易であった。

各国は、そのような制度を作ることには要求されていなかった上に、もしあったとしても、輸入許可証が偽造されていることを発見する手立ては、ごく限られていた。このような状況に対処する先人たちの、凄まじい苦労が思い起こされる。

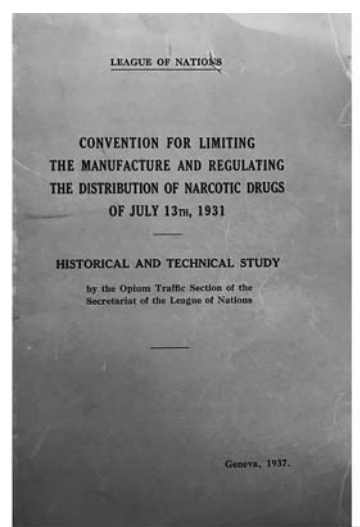
ちなみに今日では、医療用に製造された麻薬が、合法的な国際貿易の過程から違法に横流しされることなどは起こらない。たとえ輸入許可証などが偽造されたとしても、輸出国の方で、輸入国の輸入枠を個別にチェックし、それを超える輸出は条約に基づいて許可できないことになっているからである。

この「輸入枠」については、筆者が四半世紀にわたって仕えた、国際条約上、準司法的機能を持つ国際麻薬統制委員会が、複雑な計算のもとに指定する。そしてこれは、法的拘束力を持つ。各国の政府は、従わざるを得ないのだ。

しかし、いわゆる「麻薬」などではなく、それ自体は乱用されはしないが、麻薬を製造するのに必要な「前駆物質」と呼ばれる原料や、麻薬密造に不可欠な各種の「化学物質」に関しては、国際条約上の規制はゆるやかにならざるを得ず、未だ「横流し」は多く見られる。それでも、「任意」の国際協力により、「横流し」の企てを発見する国際的なメカニズムが造られてきた。国連で、筆者のチームはその先駆者であった。

100年余り前、既に国際的な犯罪組織の存在は明らかであったし、様々な国々を経由する麻薬密輸ルートに、様々な異なった国籍の人物らが関与していた。

1900年代初頭、各国の取り締まり当局が直面していたのは、このような困難な国際環境であった。それにもかかわらず、国境を超えた捜査を可能にする当局間のネットワークが出現しつつあり、国際捜査の結果として判明した事ごとは、国際麻薬規制システムの発展に寄与して、今日我々が持つ国際薬物規制の条約体制へと進化していったのであった。



国際連盟の時代、1931年に採択された麻薬規制条約

# 平成28年中の薬物情勢について

(平成29年3月警察庁組織犯罪対策部組織犯罪対策企画課公表資料「平成28年における組織犯罪の情勢」より抜粋)

平成28年における薬物情勢の特徴としては、以下のことが挙げられる。

- 1 薬物事犯検挙人員は13,411人（前年比－113人、－0.8％）と、前年並みであった。

このうち、覚醒剤事犯検挙人員は10,457人（前年比－565人、－5.1％）と減少した一方で、大麻事犯検挙人員は2,536人（前年比＋435人、＋20.7％）と引き続き増加傾向にある。

大麻事犯については、20歳未満、20歳代、30歳代の人口10万人当たりの検挙人員がそれぞれ3.0人、7.9人、5.8人（それぞれ前年比＋1.0人、＋1.0人、＋1.5人）と、若年層を中心に増加した。

- 2 覚醒剤の密輸入押収量は1,428.4キロ（前年比＋1,033.8キロ、＋262.0％）と、船舶を利用した大量密輸入事件を相次いで検挙したことなどに伴い大幅に増加した。

密輸入事犯検挙件数は82件（前年比＋9件、＋12.3％）と増加した一方で、航空機利用の「運び屋」によるものは41件（前年比－3件、－6.8％）と引き続き減少した。

- 3 危険ドラッグ事犯の検挙人員は920人（前年比－276人、－23.1％）と、5年ぶりに減少し、検挙人員のうち63.6％は、平成27年末までに認知したものとなっている。

危険ドラッグ乱用者の検挙人員のうち、インターネットを利用して危険ドラッグを入手した者の割合が42.1％を占めた。

上記のことから、末端乱用者の取締りと広報啓発を継続するとともに、薬物密輸・密売組織の上層部に迫る取締りを強化することとしている。また、危険ドラッグについて、関係機関と連携した水際対策、インターネット販売対策を継続することとしている。

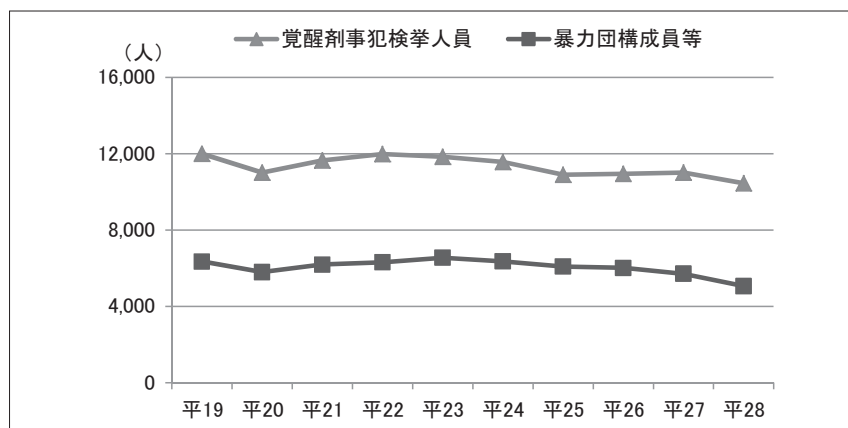
## ● 主な薬物事犯の傾向、特徴

### （1）覚醒剤事犯

覚醒剤事犯の検挙人員は10,457人（前年比－565人、－5.1％）と、第三次覚醒剤乱用期のピークである平成9年以降、長期的には減少傾向にあるが、依然として1万人を超えている。

また、覚醒剤事犯の検挙人員のうち、暴力団構成員等は5,067人（前年比－645人、－11.3％）と検挙人員の48.5％（前年比－3.3ポイント）、外国人は605人（前年比＋14人、＋2.4％）と検挙人員の5.8％（前年比＋0.4ポイント）を占めている。

〔覚醒剤事犯検挙人員の推移〕



| 区別        | 年別 | 平19    | 平20    | 平21    | 平22    | 平23    | 平24    | 平25    | 平26    | 平27    | 平28    |
|-----------|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 覚醒剤事犯検挙人員 |    | 12,009 | 11,025 | 11,655 | 11,993 | 11,852 | 11,577 | 10,909 | 10,958 | 11,022 | 10,457 |
| 暴力団構成員等   |    | 6,359  | 5,801  | 6,201  | 6,322  | 6,553  | 6,373  | 6,096  | 6,024  | 5,712  | 5,067  |
| 構成比率 (%)  |    | 53.0   | 52.6   | 53.2   | 52.7   | 55.3   | 55.0   | 55.9   | 55.0   | 51.8   | 48.5   |

## ア 年齢層別の検挙状況

年齢層別でみると、近年、人口10万人当たりの検挙人員は各年齢層においてそれぞれ横ばいで推移している。

平成28年の人口10万人当たりの検挙人員は、20歳未満が1.9人（前年比+0.2人）、20歳代が10.2人（前年比-0.8人）、30歳代が20.0人（前年比-1.0人）、40歳代が19.7人（前年比-0.8人）、50歳以上が5.0人（前年比+0.1人）であり、最も多い年齢層は30歳代、次いで40歳代となっている。

〔覚醒剤事犯年齢別検挙人員の推移〕

| 区分    |                |                | 年別 | 平24    | 平25    | 平26    | 平27    | 平28    |      |
|-------|----------------|----------------|----|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| 覚醒剤事犯 | 検挙人員           |                |    | 11,577 | 10,909 | 10,958 | 11,022 | 10,457 |      |
|       | 人口10万人当たりの検挙人員 |                |    | 11.2   | 10.6   | 10.7   | 10.7   | 10.4   |      |
|       | 年齢別            | 50歳以上          |    | 2,079  | 2,206  | 2,486  | 2,324  | 2,353  |      |
|       |                | 人口10万人当たりの検挙人員 |    |        | 4.4    | 4.6    | 5.2    | 4.9    | 5.0  |
|       |                | 構成比率（％）        |    |        | 18.0   | 20.2   | 22.7   | 21.1   | 22.5 |
|       |                | 40～49歳         |    | 3,533  | 3,430  | 3,697  | 3,779  | 3,592  |      |
|       |                | 人口10万人当たりの検挙人員 |    |        | 20.4   | 19.4   | 20.5   | 20.5   | 19.7 |
|       |                | 構成比率（％）        |    |        | 30.5   | 31.4   | 33.7   | 34.3   | 34.4 |
|       |                | 30～39歳         |    | 3,884  | 3,619  | 3,301  | 3,383  | 3,089  |      |
|       |                | 人口10万人当たりの検挙人員 |    |        | 21.8   | 21.0   | 19.8   | 21.0   | 20.0 |
|       |                | 構成比率（％）        |    |        | 33.5   | 33.2   | 30.1   | 30.7   | 29.5 |
|       |                | 20～29歳         |    | 1,933  | 1,530  | 1,382  | 1,417  | 1,287  |      |
|       |                | 人口10万人当たりの検挙人員 |    |        | 14.2   | 11.5   | 10.6   | 11.0   | 10.2 |
|       |                | 構成比率（％）        |    |        | 16.7   | 14.0   | 12.6   | 12.9   | 12.3 |
|       |                | 20歳未満          |    | 148    | 124    | 92     | 119    | 136    |      |
|       |                | 人口10万人当たりの検挙人員 |    |        | 2.0    | 1.7    | 1.3    | 1.7    | 1.9  |
|       |                | 構成比率（％）        |    |        | 1.3    | 1.1    | 0.8    | 1.1    | 1.3  |
|       | うち中学生          |                | 3  | 1      | 2      | 1      | 7      |        |      |
|       | うち高校生          |                | 22 | 15     | 11     | 14     | 18     |        |      |

|  |     |    |    |    |    |   |
|--|-----|----|----|----|----|---|
|  | 大学生 | 18 | 22 | 11 | 18 | 8 |
|--|-----|----|----|----|----|---|

注1：算出に用いた人口は、各前年の総務省統計資料「10月1日現在人口推計」又は「国勢調査結果」による。

注2：20歳未満の人口10万人当たりの検挙人員は14歳から19歳までの人口を基に、50歳以上の人口10万人当たりの検挙人員は50歳から79歳までの人口を基にそれぞれ算出。

## イ 再犯者率

覚醒剤事犯の再犯者率は、平成19年以降10年連続で増加しており、平成28年は65.1％（前年比+0.3ポイント）となっている。

〔覚醒剤事犯の再犯者率の推移〕

| 区分    |             | 年別     | 平19    | 平20    | 平21    | 平22    | 平23    | 平24    | 平25    | 平26    | 平27    | 平28    |
|-------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 覚醒剤事犯 | 検挙人員        |        | 12,009 | 11,025 | 11,655 | 11,993 | 11,852 | 11,577 | 10,909 | 10,958 | 11,022 | 10,457 |
|       | 再犯者数        |        | 6,713  | 6,188  | 6,765  | 7,114  | 7,038  | 7,116  | 6,899  | 7,067  | 7,147  | 6,804  |
|       | 再犯者率（％）     |        | 55.9   | 56.1   | 58.0   | 59.3   | 59.4   | 61.5   | 63.2   | 64.5   | 64.8   | 65.1   |
|       | 年齢別<br>再犯者率 | 50歳以上  | 81.3   | 79.3   | 82.1   | 81.2   | 81.5   | 81.3   | 79.8   | 80.2   | 83.1   | 82.3   |
|       |             | 40～49歳 | 69.7   | 70.6   | 69.6   | 72.2   | 70.4   | 70.0   | 69.7   | 71.2   | 72.2   | 72.1   |
|       |             | 30～39歳 | 55.9   | 54.0   | 55.3   | 56.2   | 56.1   | 56.8   | 58.9   | 57.3   | 57.9   | 56.9   |
|       |             | 20～29歳 | 34.5   | 34.2   | 35.8   | 35.3   | 32.9   | 37.6   | 39.0   | 39.2   | 36.0   | 38.9   |
|       |             | 20歳未満  | 10.2   | 15.3   | 18.7   | 12.7   | 12.0   | 14.9   | 15.3   | 5.4    | 16.0   | 12.5   |

## ウ 覚醒剤事犯の主な特徴

覚醒剤事犯の検挙人員は、薬物事犯の検挙人員の約8割を占めており、依然として我が国の薬物対策における最重要課題となっている。

その主な特徴としては、暴力団構成員等が検挙人員の約半数を占めていることや、30歳代及び40歳代の人口10万人当たりの検挙人員がそれぞれ他の年齢層に比べて多いことが挙げられる。

また、再犯者率が他の薬物に比べて高いことから、覚醒剤が強い依存性を有しており、一旦乱用が開始されてしまうと継続的な乱用に陥る傾向があることがうかがわれる。

## (2) 大麻事犯

大麻事犯の検挙人員は、過去10年（平成19年～28年）をみると、平成21年をピークに減少傾向にあったが、平成26年に増加に転じ、平成28年の大麻事犯の検挙人員は2,536人（前年比+435人、+20.7%）と、引き続き増加傾向にある。

また、大麻事犯の検挙人員のうち、暴力団構成員等は649人（前年比+58人、+9.8%）と検挙人員の25.6%（前年比-2.5ポイント）、外国人は181人（前年比+27人、+17.5%）と検挙人員の7.1%（前年比-0.2ポイント）を占めている。

### ア 年齢層別の検挙状況

年齢層別でみると、近年、人口10万人当たりの検挙人員が50歳以上においては、横ばいで推移している一方、その他の年齢層においては、増加傾向にある。

平成28年の人口10万人当たりの検挙人員は、20歳未満が3.0人（前年比+1.0人）、20歳代が7.9人（前年比+1.0人）、30歳代が5.8人（前年比+1.5人）、40歳代が1.8人（前年比+0.4人）、50歳以上が0.2人（前年比±0人）であり、最も多い年齢層は20歳代、次いで30歳代となっている。

〔大麻事犯年齢別検挙人員の推移〕

| 区分      |                |                | 年別  | 平24   | 平25   | 平26   | 平27   | 平28   |
|---------|----------------|----------------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 大麻事犯    | 検挙人員           |                |     | 1,603 | 1,555 | 1,761 | 2,101 | 2,536 |
|         | 人口10万人当たりの検挙人員 |                |     | 1.6   | 1.5   | 1.7   | 2.1   | 2.5   |
|         | 年齢別            | 50歳以上          |     | 71    | 67    | 88    | 104   | 113   |
|         |                | 人口10万人当たりの検挙人員 |     | 0.1   | 0.1   | 0.2   | 0.2   | 0.2   |
|         | 構成比率（％）        |                |     | 4.4   | 4.3   | 5.0   | 5.0   | 4.5   |
|         | 40～49歳         |                |     | 207   | 218   | 257   | 263   | 326   |
|         | 人口10万人当たりの検挙人員 |                |     | 1.2   | 1.2   | 1.4   | 1.4   | 1.8   |
|         | 構成比率（％）        |                |     | 12.9  | 14.0  | 14.6  | 12.5  | 12.9  |
|         | 30～39歳         |                |     | 544   | 574   | 678   | 700   | 899   |
|         | 人口10万人当たりの検挙人員 |                |     | 3.1   | 3.3   | 4.1   | 4.3   | 5.8   |
|         | 構成比率（％）        |                |     | 33.9  | 36.9  | 38.5  | 33.3  | 35.4  |
|         | 20～29歳         |                |     | 715   | 637   | 658   | 890   | 988   |
|         | 人口10万人当たりの検挙人員 |                |     | 5.3   | 4.8   | 5.0   | 6.9   | 7.9   |
|         | 構成比率（％）        |                |     | 44.6  | 41.0  | 37.4  | 42.4  | 39.0  |
|         | 20歳未満          |                |     | 66    | 59    | 80    | 144   | 210   |
|         | 人口10万人当たりの検挙人員 |                |     | 0.9   | 0.8   | 1.1   | 2.0   | 3.0   |
| 構成比率（％） |                |                | 4.1 | 3.8   | 4.5   | 6.9   | 8.3   |       |
|         |                | うち中学生          | 0   | 0     | 3     | 3     | 2     |       |
|         |                | うち高校生          | 18  | 10    | 18    | 24    | 32    |       |
| 大学生     |                |                |     | 23    | 23    | 27    | 31    | 40    |

注1：算出に用いた人口は、各前年の総務省統計資料「10月1日現在人口推計」又は「国勢調査結果」による。

注2：20歳未満の人口10万人当たりの検挙人員は14歳から19歳までの人口を基に、50歳以上の人口10万人当たりの検挙人員は50歳から79歳までの人口を基にそれぞれ算出。

### イ 初犯者率

大麻事犯の初犯者率は、近年、減少傾向にあるものの、平成28年は77.4%（前年比+0.6ポイント）と、依然として高水準にある。

〔大麻事犯の初犯者率の推移〕

| 区分   |         | 年別     | 平19   | 平20   | 平21   | 平22   | 平23   | 平24   | 平25   | 平26   | 平27   | 平28   |
|------|---------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 大麻事犯 | 検挙人員    |        | 2,271 | 2,758 | 2,920 | 2,216 | 1,648 | 1,603 | 1,555 | 1,761 | 2,101 | 2,536 |
|      | 初犯者数    |        | 1,969 | 2,359 | 2,475 | 1,803 | 1,323 | 1,292 | 1,208 | 1,385 | 1,613 | 1,962 |
|      | 初犯者率（％） |        | 86.7  | 85.5  | 84.8  | 81.4  | 80.3  | 80.6  | 77.7  | 78.6  | 76.8  | 77.4  |
|      | 年齢別     | 50歳以上  | 68.6  | 63.4  | 63.2  | 65.5  | 62.7  | 62.0  | 46.3  | 71.6  | 57.7  | 66.4  |
|      |         | 40～49歳 | 73.2  | 72.9  | 78.1  | 64.2  | 74.1  | 71.0  | 71.1  | 69.3  | 66.5  | 70.6  |
|      |         | 30～39歳 | 84.1  | 84.0  | 82.0  | 82.0  | 77.8  | 79.2  | 78.0  | 79.4  | 75.1  | 74.6  |
|      |         | 20～29歳 | 89.6  | 88.6  | 88.0  | 84.0  | 83.6  | 85.0  | 81.5  | 81.0  | 80.9  | 80.5  |
|      |         | 20歳未満  | 91.6  | 93.0  | 87.7  | 89.6  | 91.4  | 93.9  | 93.2  | 91.3  | 91.7  | 91.0  |

## ウ 大麻事犯の主な特徴

大麻事犯の検挙人員は、薬物事犯の検挙人員の2割弱を占めており、その割合は覚醒剤事犯に次いで多くなっている。

その主な特徴としては、初犯者率が依然として高水準にあることのほか、特に20歳未満、20歳代及び30歳代の人口10万人当たりの検挙人員がそれぞれ増加しており、若年層を中心に乱用傾向が増大していることが挙げられる。

〔大麻栽培事犯検挙状況の推移〕

| 区分   | 年別 | 平24 | 平25 | 平26 | 平27 | 平28 |
|------|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 検挙件数 |    | 111 | 110 | 130 | 115 | 144 |
| 検挙人員 |    | 114 | 91  | 116 | 107 | 116 |

## ● 薬物の押収状況

薬物種類別でみると、覚醒剤が1,495.4kg（前年比+1,065.7kg、+248.0％）と、大幅に増加した。また、乾燥大麻は133.1kg（前年比32.1kg、+31.8％）、大麻樹脂は0.9kg（前年比－3.0kg、－76.9％）となっており、大麻草は13,660本（前年比+10,305本、+307.2％）と大幅に増加した。

〔薬物種類別押収量の推移〕

| 種類   |      | 年別 | 平24   | 平25   | 平26   | 平27   | 平28     |
|------|------|----|-------|-------|-------|-------|---------|
| 覚醒剤  | (kg) |    | 348.5 | 831.9 | 487.5 | 429.7 | 1,495.4 |
|      | (錠)  |    | 223   | 178   | 51    | 741   | 138     |
| 乾燥大麻 | (kg) |    | 301.8 | 161.5 | 165.0 | 101.0 | 133.1   |
| 大麻樹脂 | (kg) |    | 41.7  | 1.1   | 36.7  | 3.9   | 0.9     |
| 大麻草  | (本)  |    | 6,680 | 3,850 | 5,195 | 3,355 | 13,660  |
|      | (kg) |    | 33.8  | 39.0  | 120.1 | 87.6  | 42.3    |
| 合成麻薬 | (錠)  |    | 3,674 | 2,135 | 479   | 1,055 | 5,021   |
| MDMA | (錠)  |    | 3,551 | 1,886 | 471   | 981   | 5,019   |
| コカイン | (kg) |    | 6.6   | 119.6 | 2.2   | 18.5  | 18.3    |
| ヘロイン | (kg) |    | 0.1   | 3.8   | 0.0   | 2.0   | 0.0     |
| あへん  | (kg) |    | 0.2   | 0.2   | 0.2   | 0.0   | 0.7     |

注1：覚醒剤の押収量（kg）は、錠剤型覚醒剤を含まない。

注2：大麻草の押収量（kg）は、本数として計上できない形状のものを示す。

注3：合成麻薬の押収量は、覚醒剤とMDMA等の混合錠剤を含む。

## ● 危険ドラッグ事犯の検挙状況

### (1) 危険ドラッグ事犯の検挙状況

危険ドラッグ※事犯の検挙状況は864事件（前年比－236事件、－21.5％）、920人（前年比－276人、－23.1％）と減少した。検挙人員のうち、585人（構成比率63.6％）は平成27年12月までに認知したものとなっている。

適用法令別でみると、指定薬物に係る医薬品医療機器法違反は713事件（前年比－182事件、－20.3％）、758人（前年比－202人、－21.0％）であり、このうち平成26年4月1日施行の指定薬物の単純所持・使用罪等は495事件（構成比率69.4％）、519人（構成比率68.5％）となっている。このほか、麻薬及び向精神薬取締法違反は115事件（前年比－18事件、－13.5％）、126人（前年比－22人、－14.9％）、交通関係法令違反は8事件（前年比－28事件、－77.8％）、7人（前年比－29人、－80.6％）となっている。

また、危険ドラッグ事犯のうち、暴力団構成員等に係る事犯は135事件、149人、外国人に係る事犯は40事件、43人、少年に係る事犯は13事件、14人となっている。

※ 危険ドラッグとは、規制薬物（覚醒剤、大麻、麻薬、向精神薬、あへん及びけしがらを用。以下同じ。）又は指定薬物（医薬品医療機器法第2条第15項に規定する指定薬物を用。以下同じ。）に化学構造を似せて作られ、これらと同様の薬理作用を有する物品をいい、規制薬物及び指定薬物を含有しない物品であることを標ぼうしながら規制薬物又は指定薬物を含有する物品を含む。  
※ 危険ドラッグ事犯の検挙事件数及び人員は、実務統計（警察庁において調査等により集計する数値）による。

〔危険ドラッグに係る適用法令別検挙状況の推移〕

| 区分                | 年別  |     | 平24 |     | 平25 |     | 平26  |      | 平27 |     | 平28 |     |
|-------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|
|                   | 事件数 | 人員  | 事件数 | 人員  | 事件数 | 人員  | 事件数  | 人員   | 事件数 | 人員  | 事件数 | 人員  |
| 指定薬物に係る医薬品医療機器法違反 | 34  | 57  | 21  | 37  | 401 | 492 | 895  | 960  | 713 | 758 | 495 | 519 |
| 乱用者による単純所持・使用等    |     |     |     |     | 312 | 326 | 671  | 695  | 495 | 519 |     |     |
| 麻薬及び向精神薬取締法違反     | 17  | 26  | 57  | 89  | 80  | 98  | 133  | 148  | 115 | 126 |     |     |
| 交通関係法令違反          | 19  | 19  | 38  | 40  | 157 | 160 | 36   | 36   | 8   | 7   |     |     |
| その他法令違反           | 6   | 10  | 9   | 10  | 68  | 90  | 36   | 52   | 28  | 29  |     |     |
| 合計                | 76  | 112 | 125 | 176 | 706 | 840 | 1100 | 1196 | 864 | 920 |     |     |

注1：同一被疑者で関連する余罪を検挙した場合でも、一つの事件として計上。

注2：複数の罪で検挙されている場合、主たる罪・人員として計上。

注3：指定薬物に係る医薬品医療機器法違反は、危険ドラッグから指定薬物が検出された場合の検挙をいう。

注4：麻薬及び向精神薬取締法違反は、危険ドラッグから麻薬が検出された場合の検挙をいう。

注5：交通関係法令違反は、刑法（危険運転致死傷、自動車運転過失致死傷）、自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律違反（危険運転致死傷、過失運転致死傷）、道路交通法違反をいう。

注6：適用法令（罪名）は、検挙時点を基準として計上（交通関係法令違反の中には、送致時等の罪名変更のものあり）。

注7：乱用者による単純所持・使用等とは、平成26年4月1日から規制が新設された指定薬物の単純所持、使用、購入、譲受けによる違反態様のうち、販売目的等により検挙された供給者側を除くものをいう。

注8：交通関係法令違反及びその他法令違反には、規制薬物及び指定薬物が検出されなかった事件を含む。

注9：平成26年から指定薬物以外の医薬品医療機器法違反は、その他法令違反に計上。

### (2) 危険ドラッグ乱用者の検挙状況

危険ドラッグ事犯のうち、危険ドラッグ乱用者※の検挙人員は838人（構成比率91.1％）となっている。

※ 危険ドラッグ乱用者とは、危険ドラッグ事犯検挙人員のうち、危険ドラッグを販売するなどにより検挙された供給者側の検挙を除いたものをいう。

### ○ 年齢層別の検挙状況

年齢層別でみると、20歳未満が14人（前年比－14人、－50.0％）、20歳代が145人（前年比－152人、－51.2％）、30歳代が261人（前年比－69人、－20.9％）、40歳代が293人（前年比＋57人、＋24.2％）、50歳以上が125人（前年比＋50人、＋66.7％）となっており、最も多い年齢層は40歳代、次いで30歳代となっている。

〔危険ドラッグ乱用者の年齢別検挙人員の推移〕

| 区分        |      | 年別      | 平26  | 平27  | 平28  |
|-----------|------|---------|------|------|------|
| 危険ドラッグ乱用者 | 検挙人員 |         | 631  | 966  | 838  |
|           | 年齢別  | 50歳以上   | 44   | 75   | 125  |
|           |      | 構成比率（％） | 7.0  | 7.8  | 14.9 |
|           |      | 40～49歳  | 121  | 236  | 293  |
|           |      | 構成比率（％） | 19.2 | 24.4 | 35.0 |
|           |      | 30～39歳  | 204  | 330  | 261  |
|           |      | 構成比率（％） | 32.3 | 34.2 | 31.1 |
|           |      | 20～29歳  | 236  | 297  | 145  |
|           |      | 構成比率（％） | 37.4 | 30.7 | 17.3 |
|           |      | 20歳未満   | 26   | 28   | 14   |
|           |      | 構成比率（％） | 4.1  | 2.9  | 1.7  |

### ○ 薬物経験別の検挙状況

薬物経験別でみると、薬物犯罪の初犯者が574人（構成比率68.5％、前年比－6.4ポイント）、薬物犯罪の再犯者が264人（構成比率31.5％、前年比＋6.4ポイント）となっている。

### ○ 危険ドラッグの入手状況

入手先別でみると、インターネットを利用して危険ドラッグを入手した者の割合が増加傾向にあり、危険ドラッグの流通ルートの潜在化がみられる。

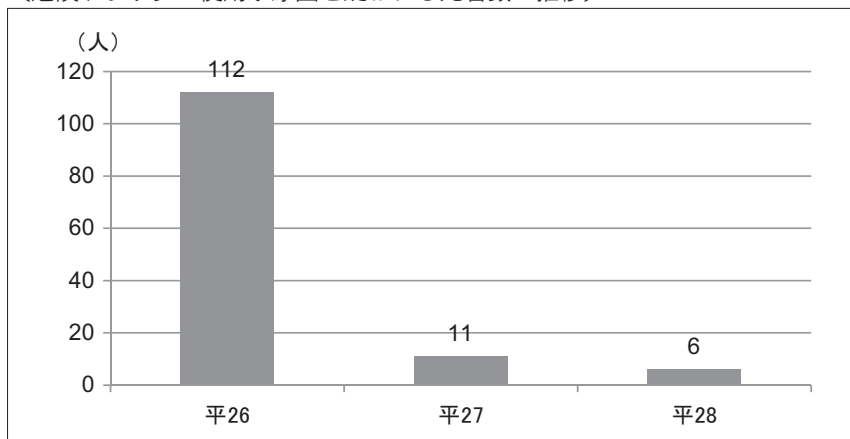
〔危険ドラッグ乱用者の入手先別検挙人員の推移〕

| 区分        |      | 年別      | 平26  | 平27  | 平28  | 平成27年12月末までに認知 | 平成28年1月以降に認知 |
|-----------|------|---------|------|------|------|----------------|--------------|
| 危険ドラッグ乱用者 | 検挙人員 |         | 631  | 966  | 838  | 531            | 307          |
|           | 入手先別 | 街頭店舗    | 366  | 265  | 130  | 106            | 24           |
|           |      | 構成比率（％） | 58.0 | 27.4 | 15.5 | 20.0           | 7.8          |
|           |      | インターネット | 124  | 336  | 353  | 263            | 90           |
|           |      | 構成比率（％） | 19.7 | 34.8 | 42.1 | 49.5           | 29.3         |
|           |      | 友人・知人   | 43   | 110  | 93   | 45             | 48           |
|           |      | 構成比率（％） | 6.8  | 11.4 | 11.1 | 8.5            | 15.6         |
|           |      | 密売人     | 36   | 109  | 71   | 24             | 47           |
|           |      | 構成比率（％） | 5.7  | 11.3 | 8.5  | 4.5            | 15.3         |
|           |      | その他・不明  | 62   | 146  | 191  | 93             | 98           |
|           |      | 構成比率（％） | 9.8  | 15.1 | 22.8 | 17.5           | 31.9         |

### ○ 危険ドラッグの使用が原因と疑われる死亡数

危険ドラッグの使用が原因と疑われる死者数は6人（前年比－5人、－45.5％）と減少した。

〔危険ドラッグの使用が原因と疑われる死者数の推移〕



注1：平成28年12月末現在で警察庁に報告があったものを計上。

注2：発生日ではなく、認知日を基準として計上。

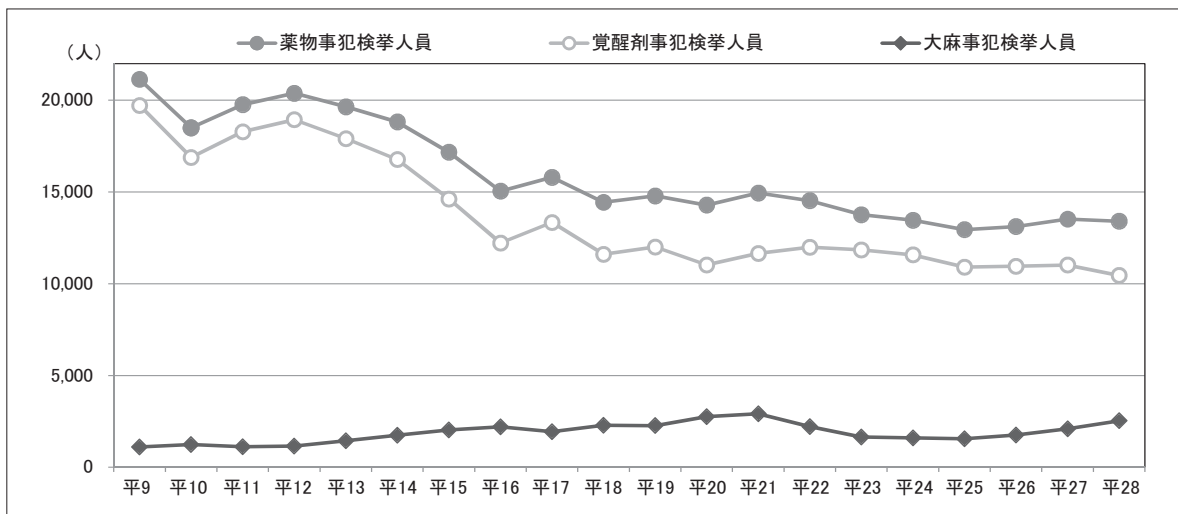
### (3) 危険ドラッグ密輸入事犯の検挙状況

危険ドラッグ密輸入事犯の検挙状況は200事件（前年比+58事件）、215人（前年比+64人）と増加した。

仕出国・地域別でみると、中国が139事件（前年比+41事件）と最も多く、次いでイギリスが16事件（前年比-2事件）となっている。

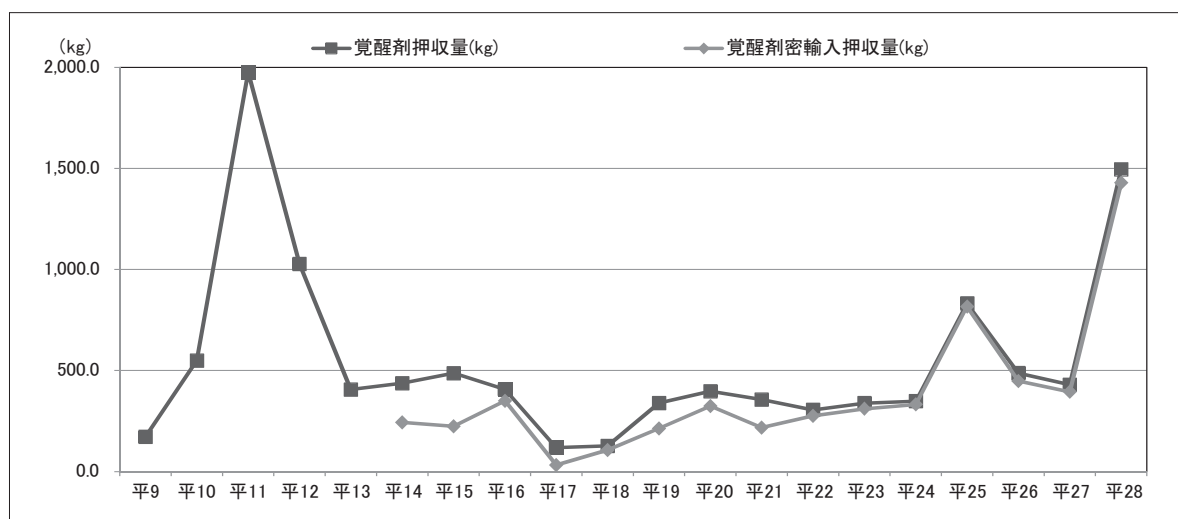
## ● 参考資料

### (1) 薬物事犯検挙状況の推移（平成9～28年）



| 区分        | 年別 | 平9     | 平10    | 平11    | 平12    | 平13    | 平14    | 平15    | 平16    | 平17    | 平18    | 平19    | 平20    | 平21    | 平22    | 平23    | 平24    | 平25    | 平26    | 平27    | 平28    |
|-----------|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 薬物事犯検挙人員  |    | 21,135 | 18,499 | 19,764 | 20,382 | 19,647 | 18,823 | 17,171 | 15,048 | 15,803 | 14,440 | 14,790 | 14,288 | 14,947 | 14,529 | 13,768 | 13,466 | 12,951 | 13,121 | 13,524 | 13,411 |
| 覚醒剤事犯検挙人員 |    | 19,722 | 16,888 | 18,285 | 18,942 | 17,912 | 16,771 | 14,624 | 12,220 | 13,346 | 11,606 | 12,009 | 11,025 | 11,655 | 11,993 | 11,852 | 11,577 | 10,909 | 10,958 | 11,022 | 10,457 |
| 大麻事犯検挙人員  |    | 1,104  | 1,236  | 1,124  | 1,151  | 1,450  | 1,748  | 2,032  | 2,209  | 1,941  | 2,288  | 2,271  | 2,758  | 2,920  | 2,216  | 1,648  | 1,603  | 1,555  | 1,761  | 2,101  | 2,536  |

### (2) 覚醒剤押収量の推移（平成9～28年）



| 区分            | 年別 | 平9    | 平10   | 平11     | 平12     | 平13   | 平14   | 平15   | 平16   | 平17   | 平18   | 平19   | 平20   | 平21   | 平22   | 平23   | 平24   | 平25   | 平26   | 平27   | 平28     |
|---------------|----|-------|-------|---------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 覚醒剤押収量(kg)    |    | 171.9 | 549.0 | 1,975.9 | 1,026.9 | 406.1 | 437.0 | 486.8 | 406.1 | 118.9 | 126.8 | 339.3 | 397.5 | 356.3 | 305.5 | 338.8 | 348.5 | 831.9 | 487.5 | 429.7 | 1,495.4 |
| 覚醒剤密輸入押収量(kg) |    | -     | -     | -       | -       | -     | 243.5 | 223.8 | 350.0 | 32.2  | 106.8 | 213.1 | 324.3 | 217.9 | 275.5 | 310.7 | 332.2 | 816.1 | 448.0 | 394.6 | 1,428.4 |

# 啓発資材のご案内

当センターでは、次のような啓発資材を頒布しています。皆様のご利用をお待ちしています。

## ◆冊子・ポスター・リーフレット等

(送料：実費)

|    | 品 名                | 最低<br>注文数 | 価格<br>(税込) | 備 考                                                                                                                     |
|----|--------------------|-----------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 健康に生きよう            | 10冊       | 1,030      | B5判 28頁 中学生向け                                                                                                           |
| 2  | 愛する自分を大切に          | 10冊       | 1,030      | B5判 20頁 小学生用向け                                                                                                          |
| 3  | 薬物乱用防止マニュアルQ & A   | 10冊       | 1,550      | B5判 33頁 高校生用向け                                                                                                          |
| 4  | 薬物乱用防止教室推進の手引き     | 10冊       | 1,550      | B6判 93頁<br>薬物乱用防止教室開催のハンドブック                                                                                            |
| 5  | 機能と役割              | 1冊        | 515        | B5判 95頁 薬物乱用問題の現状と解説                                                                                                    |
| 6  | リーフレット             | 100部      | 1,130      | A4サイズ (3つ折り)<br>団体名刷込は3,000部以上 (刷込費用不要)                                                                                 |
| 7  | 3D下敷               | 20枚       | 1,140      | A4サイズ<br>団体名刷込は2,000枚以上 (刷込費用不要)                                                                                        |
| 8  | クリアファイル (限定版)      | 10枚       | 1,550      | A4サイズ<br>購入枚数別単価：<br>①10枚以上 @155円<br>②100枚以上 @145円<br>③1,000枚以上 @125円<br>④2,000枚以上 @115円<br>団体名刷込は1,000枚以上 (刷込費用1,000円) |
| 9  | 啓発用キズバンソーコー        | 100個      | 1,550      | Mサイズ (19×72)mm 2枚入り                                                                                                     |
| 10 | 薬物標本               | 1式        | 61,700     | アタッシュケースに収納 (45×34×10)cm                                                                                                |
|    | 新薬物標本              | 1式        | 29,100     | アタッシュケースに収納 (42.5×25×6)cm                                                                                               |
| 11 | 危険ドラッグパネル (4枚組) A2 | 1式        | 47,520     | A2サイズ (594×420)mm                                                                                                       |
| 12 | 啓発活動用パネル (10枚組) B1 | 1式        | 190,200    | アルミ枠付 (72.8×103)cm                                                                                                      |
| 13 | 啓発活動用パネル (10枚組) B2 | 1式        | 162,200    | アルミ枠付 (51.5×72.8)cm                                                                                                     |
| 14 | 啓発用DVD             | 1枚        | 2,060      |                                                                                                                         |

## ◆啓発用DVD

(送料：実費)

| 番号 | 作 品 名                                                                                                                                | 製作年月    | 上映時間 | 備 考 |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|------|-----|
| 45 | 薬物乱用はダメ。ゼッタイ。～脳を科学する～                                                                                                                | 平成25年6月 | 15分  |     |
| 46 | 「ダメ。ゼッタイ君」と「ダメ。くま君」の薬物乱用防止教室                                                                                                         | 平成26年7月 | 15分  |     |
| 47 | 危険ドラッグは“毒”だ！                                                                                                                         | 平成26年9月 | 15分  |     |
| 48 | 愛する自分を大切に！ 薬物乱用はダメ。ゼッタイ！                                                                                                             | 平成27年6月 | 15分  |     |
| 49 | 薬物乱用はダメ。ゼッタイ。～やさしい解説！～<br>(内容) 埼玉県立精神医療センター協力のもと、薬物乱用がいかに危険で恐ろしいかを医師の話を交え、身体に及ぼす影響や薬物依存について分かり易く解説しています。なぜ薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」なのかを学びましょう。 | 平成28年8月 | 15分  |     |

ご注文はホームページの購入申込書をプリントアウトしたものでFAXにて承ります。

(公財) 麻薬・覚せい剤乱用防止センター

電話. 03-3581-7436 FAX. 03-3581-7438 アドレス. <http://www.dapc.or.jp>

# ご 寄 付 団 体 及 び 賛 助 会 員

平成29年2月4日から平成29年8月1日までに、当センターにご寄附いただいた団体及びご入会いただいた賛助会員は次のとおりです。ご協力ありがとうございました。

## 〔ご寄附団体・個人〕

|                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 平 古 場 潤 様           | 水 谷 義 広 様         |
| ライオンズクラブ国際協会330C地区様 | 東京八王子陵東ライオンズクラブ様  |
| (一財)東京都警察懇話会様       | 田 辺 三 菱 製 薬 (株) 様 |
| 日 本 臓 器 製 薬 (株) 様   | テ ル モ (株) 様       |
| 救 急 薬 品 工 業 (株) 様   | 丸 石 製 薬 (株) 様     |
| 藤 本 製 薬 (株) 様       |                   |

## 〔法人賛助会員〕

|                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| (株) イ ン タ ラ ッ ク 様 | (株) エ ス エ ス 製 薬 様 |
| (株) 豊 島 印 刷 様     | 学 校 法 人 関 西 大 学 様 |
| 丸 石 製 薬 株 式 会 社 様 | 東京代々木ライオンズクラブ 様   |

## 〔個人賛助会員〕

|              |               |                |               |
|--------------|---------------|----------------|---------------|
| 池田 冬美 様 (継続) | 矢口 博行 様 (継続)  | 碓野 孝之 様 (継続)   | 山本 稔 様 (継続)   |
| 栗田 勝治 様 (継続) | 清水 享 様 (継続)   | 星 和夫 様 (継続)    | 大屋 博 様 (継続)   |
| 百済 さち 様 (継続) | 小山 功男 様 (継続)  | 佐藤 照彦 様 (継続)   | 清水 義勝 様 (継続)  |
| 関口 正雄 様 (継続) | 寺田 義和 様 (継続)  | 中村 楯夫 様 (継続)   | 野々 晴久 様 (継続)  |
| 古瀬 智之 様 (継続) | 和田 義広 様 (継続)  | 辻川 明子 様 (継続)   | 稲荷 恭三 様 (継続)  |
| 石井 征二 様 (継続) | 伊藤 寛 様 (継続)   | 奥田 英男 様 (継続)   | 小清水 征次 様 (継続) |
| 高槻 七江 様 (継続) | 千葉 信雄 様 (継続)  | 中本 幾司 様 (継続)   | 松石 高之 様 (継続)  |
| 丸井 一弘 様 (継続) | 山名 純一 様 (継続)  | 山崎 功 様 (継続)    | 舘 親光 様 (継続)   |
| 服部 利明 様 (継続) | 村島 吉豊 様 (継続)  | 山田 松三郎 様 (継続)  | 渡貫 直正 様 (継続)  |
| 中嶋 敏次 様 (継続) | 神垣 鎮 様 (継続)   | 中村 昌策 様 (継続)   | 清水 勝利 様 (継続)  |
| 原 恒道 様 (継続)  | 澤田 宏 様 (継続)   | 佐藤 精一郎 様 (継続)  | 村松 滝夫 様 (継続)  |
| 森 和弘 様 (継続)  | 篠 順三 様 (継続)   | スライ 富士子 様 (継続) | 羽原 敬二 様 (継続)  |
| 石原 俊也 様 (継続) | 福田 将己 様 (継続)  | 芳賀 寛 様 (継続)    | 岩野 秀夫 様 (継続)  |
| 西山 孟夫 様 (継続) | 古木 光義 様 (継続)  | 田中 慎二 様 (継続)   | 野原 則子 様 (継続)  |
| 斉藤 勲 様 (継続)  | 河野 利光 様 (継続)  | 山田 順子 様 (継続)   | 徳山 尚吾 様 (継続)  |
| 山地 義夫 様 (継続) | 中村 松太郎 様 (継続) |                |               |



公益財団法人

麻薬・覚せい剤乱用防止センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-7-9 (第1岡名ビル2F)

TEL.03 (3581) 7436 ~ 7 FAX.03 (3581) 7438

ホームページアドレス <http://www.dapc.or.jp>



ずっと愛されてる理由ですか？  
自然で、優しくて、爽やかで、  
香りがよくて・・・  
あ、太田胃散の話ですよ。



12月13日は  
「胃に胃散」の日です。

飲みすぎ 胸やけ 胃の不快感に  
太田胃散 ありがとう いいくすりです。



第2類医薬品



Obata 太田胃散

## 介護付有料老人ホームと在宅福祉のご案内です。

### 八王子市暁町



#### ●シルバーレジ八王子

直下型地震にも対応  
安心の免震構造

#### ●シルバーレジ日野東館



多摩モノレール  
甲州街道駅徒歩1分！！

#### ●シルバーレジ日野



八王子市宮下町

#### ●シルバーレジ八王子西



八王子に隣接  
救急指定右田病院



日野・日野東館に隣接  
康明会  
ホームケアクリニック

在宅福祉部

- 居宅介護支援事業所  
シルバーレジいちょうの里
- 訪問介護事業所  
シルバーレジいちょうの杜
- セカンドライフ応援倶楽部  
シルバーレジいちょうの実

「ゆったりと安心の毎日」をお届けしています。  
**SV シルバーレジ**

パンフレットのご請求は

**0120-19-0432**

ホームページ **シルバーレジ** 検索

株式会社シルバーレジ 代表取締役会長 石井 征二(八王子陵東LC)

# Have a



**ファイトイッパツ!**  
**リポビタミンD**

指定医薬部外品 肉体疲労時の栄養補給、滋養強化

# ream

その手に、夢を。

**Hisamitsu®**

伝えよう 手から手へ  
**170<sup>th</sup>**  
Anniversary



僕も、もっと前に!  
全力出すんで!



より いやす  
**5月18日は**  
サロンパスの日



貼って、寝て、  
きもちいい。

# サロンパス®

肩こり・腰痛・筋肉痛に 第3類医薬品

この商品に関するお問い合わせは、久光製薬お客様相談室へ。 ☎ 0120-133250 受付時間/9:00-17:50(土日・祝日・会社休日を除く) [www.hisamitsu.co.jp](http://www.hisamitsu.co.jp)

サロンパス

検索